

提言

第 23 期学術の大型研究計画に関する
マスタープラン
(マスタープラン 2017)



平成29年（2017年）2月8日

日 本 学 術 会 議

科学者委員会

学術の大型研究計画検討分科会

この提言は、日本学術会議科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会の審議結果を取りまとめ公表するものである。

日本学術会議 科学者委員会
学術の大型研究計画検討分科会

委員長	相原 博昭	(第三部会員)	東京大学副学長・大学院理学系研究科教授
副委員長	永井 良三	(第二部会員)	自治医科大学学長
幹事	苧阪 満里子	(第一部会員)	大阪大学名誉教授・脳情報通信融合研究センター主任研究員・未来戦略機構招聘教授
幹事	長野 哲雄	(第二部会員)	東京大学名誉教授、東京大学創薬機構客員教授
	岩本 康志	(第一部会員)	東京大学大学院経済学研究科教授
	宮崎 恒二	(第一部会員)	東京外国語大学特命事項担当室・教授
	嶋田 透	(第二部会員)	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
	柴山 悦哉	(第三部会員)	東京大学情報基盤センター教授
	高原 淳	(第三部会員)	九州大学先導物質化学研究所長・主幹教授

本提言の作成に当たり、以下の方々にご協力いただいた。

小森田 秋夫	(第一部会員)※	神奈川大学法学部教授 (※平成28年9月23日まで。現在連携会員)
巖佐 庸	(第二部会員)	九州大学大学院理学研究院教授
川井 秀一	(第二部会員)	京都大学大学院総合生存学館(思修館)学館長・特定教授
古谷野 潔	(第二部会員)	九州大学大学院歯学研究院教授
清水 孝雄	(第二部会員)	国立研究開発法人国立国際医療研究センター理事・研究所長、東京大学総長顧問
清水 誠	(第二部会員)	東京農業大学応用生物科学部教授
城石 俊彦	(第二部会員)	情報・システム研究機構国立遺伝学研究所副所長・教授
清木 元治	(第二部会員)	金沢大学医薬保健研究域・医学系招聘型リサーチプロフェッサー(特任教授)、東京大学名誉教授

丹沢 秀樹	(第二部会員)	千葉大学大学院医学研究院教授
中野 明彦	(第二部会員)	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻教授
那須 民江	(第二部会員)	中部大学生命健康科学部教授、名古屋大学名誉教授
新井 民夫	(第三部会員)	芝浦工業大学 教育イノベーション推進センター教授
大久保 修平	(第三部会員)	東京大学地震研究所教授・高エネルギー素粒子地球物理学研究センター長
岡 眞	(第三部会員)	東京工業大学理学院教授
喜連川 優	(第三部会員)	情報・システム研究機構国立情報学研究所所長、東京大学生産技術研究所教授
坪井 俊	(第三部会員)	東京大学大学院数理科学研究科教授
中村 栄一	(第三部会員)	東京大学総括プロジェクト機構特任教授、東京大学大学院理学系研究科特任教授、東京大学名誉教授
松岡 猛	(第三部会員)※	宇都宮大学基盤教育センター非常勤講師 (※平成28年1月20日まで。現在連携会員)
吉田 進	(第三部会員)	京都大学特任教授・名誉教授
吉田 豊信	(第三部会員)	東京大学名誉教授
吉野 博	(第三部会員)	東北大学総長特命教授・東北大学名誉教授・秋田県立大学客員教授・前橋工科大学客員教授
依田 照彦	(第三部会員)※	早稲田大学理工学術院創造理工学部教授 (※平成28年9月13日まで。現在連携会員)
荒川 泰彦	(連携会員)	東京大学生産技術研究所教授
田中 啓治	(連携会員)	国立研究開発法人理化学研究所脳科学総合研究センター副センター長
中畑 龍俊	(連携会員)	京都大学 iPS 細胞研究所副所長・特定拠点教授
菱田 公一	(連携会員)	慶應義塾大学理工学部教授

本提言の作成に当たり、以下の職員が事務を担当した。

事務	盛田 謙二	参事官(審議第二担当) (平成27年8月まで)
	石井 康彦	参事官(審議第二担当) (平成27年8月から)
	松宮 志麻	参事官(審議第二担当)付参事官補佐
	大西 真代	参事官(審議第二担当)付専門職 (平成27年10月まで)
	大橋 睦	参事官(審議第二担当)付専門職付 (平成27年10月から)
	熊谷 鷹佑	参事官(審議第二担当)付専門職付 (平成28年4月まで)

大庭 美穂
鈴木 宗光

参事官(審議第二担当)付専門職付(平成28年4月から)
参事官(審議第二担当)付専門職付(平成29年1月まで)

調 査

辻 明子
漆畑 春彦

上席学術調査員
上席学術調査員(平成28年2月から)

要 旨

1 本提言の背景

学術の大型施設計画・大規模研究計画（以下「大型研究計画」という。）に関するマスタープランは、科学者コミュニティの代表としての日本学術会議が、学術全般を展望し、かつ体系化しつつ、各学術分野が必要とする大型研究計画を網羅するとともに、我が国の大型研究計画のあり方について、一定の指針を与えることを目的として策定するものである。

第 21 期日本学術会議科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会が、2010 年に最初のマスタープランを策定し、2011 年にその小改定を行った。第 22 期日本学術会議科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会は、策定方針の見直しを行い、学術研究領域の制定、公募の採用、そして日本学術会議分野別委員会との連携の強化を行い、「第 22 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン(マスタープラン 2014)」(以下「マスタープラン 2014」という。)を策定した。

第 23 期日本学術会議科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会（以下「本分科会」という。）は、これらのマスタープランのいずれもが、我が国の学術政策、さらに関係省庁、大学、研究機関等における具体的施策や予算措置に有効活用されていると考えるとともに、策定方針に関する科学者コミュニティからの意見等を踏まえ、マスタープラン 2014 の改定を行い、「第 23 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン(マスタープラン 2017)」(以下「マスタープラン 2017」という。)を策定した。

2 策定の方針と経緯

学術大型研究計画は、長期（5～10 年あるいはそれ以上）の実施期間と総額数十億円を超える予算規模を有し、「日本の展望—学術からの提言 2010」等を踏まえた学術のビジョンや体系に立脚した、各学術分野が必要とする大型施設計画若しくは大規模研究計画である。大型施設計画は、最先端の研究を切り開くことを目的とし、科学者コミュニティの合意の下に、大学共同利用機関等が主体となって大型施設及びそれに付随する装置や設備を建設・整備し運用する計画であり、その施設は、コミュニティの研究者によって共用される。大規模研究計画は、分野の研究者が一致して認める重要課題について、長期間にわたって多くの研究者を組織し観測や研究を推進する、あるいは大規模なデータ収集組織やデータベースを構築し、その効果的利用を推進する等、大きな規模の計画的研究の展開によって新たな知を創造する計画である。

本分科会は、報告「第 23 期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針」を平成 28 年 2 月に公表し、その後公募によって、学術大型研究計画の提案募集を行った。提案者は、(i) 研究・教育機関長または部局長等、(ii) 日本学術会議会員、連携会員、(iii) 学協会長等、のいずれかとした。公募の対象は、二つのグループに分け、区分 I（新規応募計画及びマスタープラン 2014 区分 I 掲載の計画）と、区分 II（マスタープラン 2014 に掲載され、かつ現在実施中・進行中の計画）とした。

各学術大型研究計画は、マスタープラン 2014 で定めた学術研究領域、及び、今回追加した「生命科学融合領域」、「理学・工学融合領域」、「人文・社会科学、生命科学、理学・工

学のうち二分野以上に関わる融合領域」のいずれかに分類される。

評価は、計画の学術的価値、科学者コミュニティの合意（他の提案との重複の有無なども含む）、計画の実施主体、計画の妥当性、共同利用体制の充実度、社会的価値（国民の理解、知的価値、経済的・産業的価値など）、そして大型研究計画としての適否の観点から行った。区分Ⅰには、166件の応募、区分Ⅱには、16件の応募があった。本分科会は、区分Ⅰの応募提案のうち、163件を学術大型研究計画として選定した。区分Ⅱの応募提案については、全ての提案を学術大型研究計画として選定した。

さらに、本分科会は、上記の評価観点に、計画の成熟度、国家としての戦略性、緊急性、そして予算化のための計画の準備状況を加えた諸観点から、特に速やかに推進すべき計画として、区分Ⅰから28件の学術大型研究計画を選定し、重点大型研究計画とした。

3 提言の内容

本分科会は、区分Ⅰ（163件）と区分Ⅱ（16件）の学術大型研究計画と、区分Ⅰの計画から選定した28件の重点大型研究計画からなるマスタープラン2017を策定した。重点大型研究計画は、学術大型研究計画の中でも特に優先順位が高く、国や地方自治体等によって予算化され、可及的速やかに推進されるべきである。科学者コミュニティのボトムアッププロセスによって策定されたマスタープラン2017が、我が国の学術政策、さらに関係省庁、大学、研究機関等における具体的施策や予算措置に活かされるよう提言する。

目 次

1	本提言の背景と目的	1
2	マスタープラン 2017 の策定経緯	2
	(1) 学術大型研究計画の策定経緯	2
	(2) 重点大型研究計画の策定経緯	2
	(3) マスタープラン 2017 策定に関わる利益相反排除の方針	3
3	提言：マスタープラン 2017	4
	<参考文献>	20
	<参考資料>	21
	参考資料 1 マスタープラン 2017 策定の流れ	21
	参考資料 2 学術研究領域一覧	22
	参考資料 3 公募要領	26
	参考資料 4 各分野の大型研究計画評価小分科会委員一覧	29
	参考資料 5 学術大型研究計画策定における審査・評価プロセス	31
	参考資料 6 重点大型研究計画審査小委員会委員一覧	37
	参考資料 7 重点大型研究計画策定における審査・評価プロセス	38
	参考資料 8 区分 I 分野別の応募提案数・学術大型研究計画数・ヒアリング対象数・ 重点大型研究計画数	42
	参考資料 9 提案者の分類	43
	参考資料 10 審議経過	44
	付録	50

1 本提言の背景と目的

学術の大型施設計画・大規模研究計画（以下「大型研究計画」という。）に関するマスタープラン（以下「マスタープラン」という。）は、科学者コミュニティの代表としての日本学術会議が、学術全般を展望し、かつ体系化しつつ、各学術分野が必要とする大型研究計画を網羅するとともに、我が国の大型研究計画のあり方について、一定の指針を与えることを目的として策定するものである。

第 21 期日本学術会議科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会は、最初のマスタープランである「学術の大型施設計画・大規模研究計画—企画・推進策の在り方とマスタープラン策定について—」[1]を 2010 年に公表し、2011 年に、その小改定を行い「学術の大型施設計画・大規模研究計画 マスタープラン 2011」[2]として公表した。第 22 期日本学術会議科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会は、マスタープラン策定にあたり、策定方針の見直しを行い、学術研究領域の制定、公募の採用、そして日本学術会議分野別委員会との連携の強化を行い、「第 22 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン 2014）」[3]（以下「マスタープラン 2014」という。）を策定した。

第 23 期日本学術会議科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会（以下「本分科会」という。）は、これらのマスタープランのいずれもが、我が国の学術政策、さらに関係省庁、大学、研究機関等における具体的施策や予算措置に有効活用されていると考えるとともに、策定方針に関する科学者コミュニティからの意見等を踏まえ、マスタープラン 2014 の改定を行い、「第 23 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン 2017）」（以下「マスタープラン 2017」という。）を策定した。

学術大型研究計画は、長期（5～10 年あるいはそれ以上）の実施期間と総額数十億円を超える予算規模を有し、「日本の展望—学術からの提言 2010」[4]等を踏まえた学術のビジョンや体系に立脚した、各学術分野が必要とする大型施設計画若しくは大規模研究計画である。大型施設計画は、最先端の研究を切り開くことを目的とし、科学者コミュニティの合意の下に、大学共同利用機関等が主体となって大型施設及びそれに付随する装置や設備を建設・整備し運用する計画であり、その施設は、コミュニティの研究者によって共用される。大規模研究計画は、分野の研究者が一致して認める重要課題について、長期間にわたって多くの研究者を組織し観測や研究を推進する、あるいは大規模なデータ収集組織やデータベースを構築し、その効果的利用を推進する等、大きな規模の計画的研究の展開によって新たな知を創造する計画である。

各学術大型研究計画は、マスタープラン 2014 で定めた学術研究領域、及び、今回追加した「生命科学融合領域」、「理学・工学融合領域」、「人文・社会科学、生命科学、理学・工学のうち二分野以上に関わる融合領域」のいずれかに分類される（なお、「人文・社会科学融合領域」はマスタープラン 2014 で既に定めてある。）（参考資料 2 参照）。さらに、学術大型研究計画の中から、特に速やかに推進すべき計画を選定し、重点大型研究計画とした。

マスタープラン 2017 の策定に当たっては、これまで同様、会員及び連携会員の協力を得るとともに学協会との連携を積極的に推進し、広く科学者コミュニティの意思疎通を図った。また、策定過程の透明性の確保に一層配慮した。

これまでのマスタープラン同様、科学者コミュニティのボトムアッププロセスによって策定されたマスタープラン 2017 が、我が国の学術政策、さらに関係省庁、大学、研究機関等における具体的施策や予算措置に有効に活かされることを期待する。

2 マスタープラン 2017 の策定経緯

(1) 学術大型研究計画の策定経緯

本分科会は、報告「第 23 期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針」を平成 28 年 2 月に公表し[5]、その後公募によって、学術大型研究計画の提案募集を行った（参考資料 3 を参照）。提案者は、(i) 研究・教育機関長または部局長等、(ii) 日本学術会議会員、連携会員、(iii) 学協会長等、のいずれかとした。公募の対象は、二つのグループに分け、区分 I（新規応募計画及びマスタープラン 2014 区分 I 掲載の計画）と、区分 II（マスタープラン 2014 に掲載され、かつ現在実施中・進行中の計画）とした。人文・社会科学分野の提案については、日本学術会議第一部全体に対応する評価小分科会、生命科学分野及び理学・工学分野の提案については、それぞれ第二部、第三部の分野別委員会に対応する評価小分科会（以下「評価小分科会」という。参考資料 4 参照。）で評価を行った。また、今回新たに設けた融合領域については、関連する分野の評価小分科会による評価結果を参考に、本分科会で評価を行った。評価は、計画の学術的価値、科学者コミュニティの合意（他の提案との重複の有無なども含む）、計画の実施主体、計画の妥当性、共同利用体制の充実度、社会的価値（国民の理解、知的価値、経済的・産業的価値など）、そして大型研究計画としての適否の観点から行った。評価方法の詳細については参考資料 5 を参照のこと。

区分 I には、166 件の応募、区分 II には、16 件の応募があった。それらの分野別内訳は、表 1 と表 2 のとおりである。本分科会は、前述の評価の結果を踏まえて、区分 I の応募提案のうち、163 件を学術大型研究計画として選定した（表 3 参照）。区分 II の応募提案については、全ての提案を学術大型研究計画として選定し（表 4 参照）、評価小分科会あるいは本分科会による学術的観点からの評価所見を提案者に送付した。なお、マスタープラン 2014 では、区分 I に 209 件、区分 II に 15 件の応募提案があり、それらから、区分 I（192 件）と区分 II（15 件）が学術大型研究計画として選定された。

(2) 重点大型研究計画の策定経緯

評価小分科会及び本分科会は、区分 I 学術大型研究計画に選定された 163 件から重点大型研究計画の候補となる計画について予備選考を行った。その結果を踏まえて、本分科会は、本分科会委員及び評価小分科会の委員長若しくはその代理で構成される重点大型研究計画審査小委員会（以下「審査小委員会」という。参考資料 6 参照。）におけるヒアリングの対象となる提案 65 件を定めた（表 5 参照）。審査小委員会は、計画の学術的価値、実施主体の明確性（責任を果たせる体制になっているか）、計画の妥当性、成熟度、共同利用体制の充実度、社会的価値（国民の理解、知的価値、経済的・産業的価値）、大型研究計画としての適否、国家としての戦略性、緊急性、そして予算化のため

の計画の準備状況の観点から評価を行った。評価方法の詳細については参考資料7を参照のこと。

本分科会は、審査小委員会の評価結果を参考にし、かつ、人文・社会科学（第一部）、生命科学（第二部）、理学・工学（第三部）のそれぞれから一定数以上の提案が含まれること、さらに、多様な分野の提案が含まれることにも配慮し、9件の大型施設計画と19件の大規模研究計画の合計28件を重点大型研究計画として選定した。今回新たに設けた融合領域からは、大型施設計画2件、大規模研究計画4件が選定された。なお、28件のうち、18件は、マスタープラン2014においても重点大型研究計画に選定された計画であった。

学術大型研究計画として選定された提案のうち大型施設計画「国際リニアコライダー計画」については、以下の理由により、重点大型研究計画の評価の対象とはしないこととした。本提案については、第22期日本学術会議が、文部科学省研究振興局長からの審議依頼に対応して、課題別委員会「国際リニアコライダー計画に関する検討委員会」を設け、平成25年9月30日付け回答「国際リニアコライダー計画に関する所見」を取りまとめており[6]、「マスタープラン2014」では重点大型研究計画の評価の対象から除外された。物理学分野の大型研究計画評価小分科会は、この回答に至った条件及び状況に本評価時点でも変更がないことから、本提案については他の提案と同じ基準で相対評価はしないことを、本分科会へ申し入れた。本分科会は、その申入れを承認し、本提案については学術大型研究計画にふさわしいか否かの評価を同小分科会へ依頼の上、上記の決定に至った。

(3) マスタープラン2017策定に関わる利益相反排除の方針

マスタープランは、資源配分機関の予算配分等に直接関与するものではない。しかしながら、日本学術会議会員・連携会員がマスタープランの策定に関与する場合には、提案の評価という公的な立場と一研究者としての立場の両方を有するため、相反する緊張関係、すなわち利益相反の状態に入ることは否めない。日本学術会議会員・連携会員が、高い見識の下で、日本学術会議声明「科学者の行動規範について—改訂版—」（平成25年1月25日）[7]の利益相反の条項を踏まえて、公平で公正な策定・選定を行うのは言を俟たないが、評価に当たっては、以下の規則を定めた。

- 1) 公募に際して、本分科会委員は提案者になることはできない。
- 2) 学術大型研究計画の策定に際して、提案者は評価小分科会委員になることは妨げないが、評価小分科会における当該提案については評価しない。
- 3) 本分科会委員は、評価小分科会における提案の評価には参画しない。
- 4) 評価小分科会委員は、自ら密接に関わっている、あるいは、そのように見なされる可能性がある提案については評価しない。なお、単に研究機関や部局が同一である場合は、これに該当しない。
- 5) 重点大型研究計画の選定に際して、提案者は審査小委員会委員になることはできない。

6) 審査小委員会委員は、自ら密接に関わっている、あるいは、そのように見なされる可能性がある提案については評価しない。なお、単に研究機関や部局が同一である場合は、これに該当しない。

7) 評価小分科会委員長及びその代理は、審査小委員会において、該当する評価小分科会からの提案については評価を行わない。

評価小分科会委員の利益相反の有無については、各評価小分科会で、審査小委員会委員の利益相反の有無については、本分科会において確認した。

3 提言：マスタープラン 2017

本分科会は、区分Ⅰ（163件）と区分Ⅱ（16件）の学術大型研究計画と、区分Ⅰの計画から選定した28件の重点大型研究計画からなるマスタープラン2017を策定した。区分Ⅰ（大型施設計画40件、大規模研究計画123件）と区分Ⅱ（大型施設計画6件、大規模研究計画10件）のそれぞれを表3と表4に、重点大型研究計画（大型施設計画9件と大規模研究計画19件）を表6に示す。いずれも日本学術会議が高く評価した計画である。重点大型研究計画は、学術大型研究計画の中でも特に優先順位が高く、国や地方自治体等によって予算化され、可及的速やかに推進されるべきである。

科学者コミュニティのボトムアッププロセスによって策定されたマスタープラン2017が、我が国の学術政策、さらに関係省庁、大学、研究機関等における具体的施策や予算措置に活かされるよう提言する。

表1 応募提案数（区分I）

分野	大型施設計画	大規模研究計画	総数
人文・社会科学	1	9	10
基礎生物学	0	2	2
統合生物学	0	2	2
農学	3	8	11
食料科学	2	6	8
基礎医学	2	1	3
臨床医学	0	4	4
健康・生活科学	0	1	1
歯学	0	1	1
薬学	1	2	3
環境学	1	3	4
数理科学	0	1	1
物理学	15	9	24
地球惑星科学	2	6	8
情報学	0	16	16
化学	2	2	4
総合工学	0	12	12
機械工学	1	3	4
電気電子工学	1	4	5
土木工学・建築学	2	0	2
材料工学	1	3	4
生命科学融合領域	0	3	3
理学・工学融合領域	2	7	9
人文・社会科学、生命科学、 理学・工学のうち2分野以上 に関わる融合領域	4	21	25
合計	40	126	166

（出典）本分科会にて作成

表2 応募提案数（区分Ⅱ）

分野	大型施設計画	大規模研究計画	総数
人文・社会科学	0	2	2
基礎生物学	0	0	0
統合生物学	0	0	0
農学	0	1	1
食料科学	0	0	0
基礎医学	0	1	1
臨床医学	0	0	0
健康・生活科学	0	0	0
歯学	0	0	0
薬学	0	1	1
環境学	0	0	0
数理科学	0	0	0
物理学	5	0	5
地球惑星科学	0	2	2
情報学	0	1	1
化学	0	0	0
総合工学	0	2	2
機械工学	0	0	0
電気電子工学	0	0	0
土木工学・建築学	0	0	0
材料工学	0	0	0
生命科学融合領域	1	0	1
理学・工学融合領域	0	0	0
人文・社会科学、生命科学、 理学・工学のうち2分野以上 に関わる融合領域	0	0	0
合計	6	10	16

（出典）本分科会にて作成

表3 学術大型研究計画一覧（区分Ⅰ）（全163件）

計画NO.	施設・研究の別	分野	学術領域番号	マスタープラン2014の重点大型研究計画 ¹	計画タイトル
1	研究	人文・社会科学	2-1		サイバー哲学研究拠点の構築
2	研究	人文・社会科学	2-7		伝統知を活かした持続可能な社会構築に向けた協働研究
3	研究	人文・社会科学	3-8		大学教育の分野別質保証に関する調査研究拠点の形成—学問分野別の教育内容・方法の特徴把握と学生追跡調査・国際比較調査に基づく大学教育カリキュラムの改善—
4	研究	人文・社会科学	6-3		広域アジアを対象とした歴史地名・歴史名称を基軸とする時空間情報基盤の構築
5	研究	人文・社会科学	8-5		我が国を事例とした政治制度への信頼性に関する実証研究
6	研究	人文・社会科学	11-1		公的統計マイクロデータ等の研究活用のための全国ネットワーク整備
7	研究	人文・社会科学	11-1	○	新しい社会科学としてのエビデンスベース人間科学の確立とネットワーク型大規模経年データの構築
8	施設	人文・社会科学	11-2		クラウドファンディングによる学術研究発信システムの構築
9	研究	人文・社会科学	11-2		欧州とアジアにおける地域協働及び歴史的対立関係の修復に向けての総合的共同研究プロジェクト—シンクタンク形成と若手・女性研究者育成—
10	研究	人文・社会科学	11-2		芸術文化のワンストップ・エコシステム創造国際拠点—世界の美術工芸作品・文化財の保管・分析・修復・展示を通じた新たな市場形成と文化外交への活用システムの構築—
11	研究	基礎生物学	12-1		生物の適応戦略研究のための大学連携研究拠点ネットワークの形成
12	研究	基礎生物学	12-7		海洋バイオフィロンティア研究ネットワークの構築—海洋に潜む生命機能の解明—
13	研究	統合生物学	13-3		新世代生物多様性・生態系モニタリングのネットワークと拠点形成:変動環境下における生態系機能の応答機構の解明とレジリエンスの向上を目指して
14	研究	統合生物学	13-4		日本列島人の成立にいたる人類進化史の解明
15	施設	農学	14-2		産官学協働研究のためのクラスター構築と知の集積による「食・農・バイオマス」地域資源利活用による地方振興ネットワーク形成
16	研究	農学	14-2		グローバル環境資源研究基盤構築と食・エネルギー・資源開発国際研究拠点形成
17	研究	農学	14-3		気候変動に対応するゲノム基盤技術に基づく次世代ゲノム育種展開
18	施設	農学	14-4		大気・水・土環境のグリーンイノベーション改善・回復研究拠点の形成
19	研究	農学	14-4		エネルギー・情報オープンイノベーションによる自律農業共創学の拠点形成
20	研究	農学	14-4		高付加価値植物の作出および生産システムの開発
21	施設	農学	14-5		次世代を担う革新的なバイオマス生産・利活用技術の(農学学際)研究開発
22	研究	農学	14-6		変動環境下での持続的スマート森林管理
23	研究	農学	14-7		カイコをモデルとした統合昆虫学拠点と新産業創生ネットワーク形成

¹ マスタープラン2014で重点大型研究計画であった計画について、○を記載。表5、6も同様。

計画NO.	施設・研究の別	分野	学術領域番号	マスタープラン2014の重点大型研究計画	計画タイトル
24	研究	農学	14-8	○	東日本大震災からの復興農学拠点
25	研究	農学	14-9		化学とバイオテクノロジー融合技術によるトータルフードデザイン研究拠点
26	研究	食料科学	15-1		マリンビジョン・ネットワーキング計画:地球環境変動に対応するビッグデータ解析システム利用の広域沿岸水域生態系解析と海洋生物資源の持続的利用のための研究拠点の形成
27	研究	食料科学	15-4	○	One Health アニマルサイエンス研究拠点形成
28	研究	食料科学	15-6		超高効率な微生物探索による生物機能開発イノベーションの革新
29	施設	食料科学	15-7		天然物の活用による農業イノベーション:リードソース再構築と革新的生産手段の開発
30	研究	食料科学	15-8		統合情報を駆使したスマート・メガスケール植物工場ネットワークによる国際競争力のある農作物生産
31	研究	食料科学	15-8		統合農業知の可視化によるユーザーイノベーション実践科学
32	研究	食料科学	15-8		次世代オミクス情報制御食料生産植物工場システム
33	施設	食料科学	15-9		統合的食和・腸内細菌機能科学によるグローバルヘルスフードイノベーション
34	研究	基礎医学	16-1	○	健康社会の創成に向けた多次元脳・生体イメージングセンターの構築:大規模ネットワーク解析によるヒトの知能の理解、革新的疾患予防・治療法開発・創薬に向けて
35	施設	基礎医学	16-6	○	高度安全実験(BSL-4)施設を中核とした感染症研究拠点の形成
36	施設	基礎医学	16-7		先端科学技術によるディペンダブル医療機器・化学マテリアル・社会システムのレギュラトリー科学評価解析センター
37	研究	臨床医学	17-1		医学医療情報の大規模統合解析と医用人工知能応用基盤の開発研究計画
38	研究	臨床医学	17-1		ビッグデータと人工知能で拓く健康長寿社会のためのシミュレーション科学
39	研究	臨床医学	17-4	○	ゲノム医科学研究拠点の形成
40	研究	臨床医学	17-5		放射線医科学イノベーション創出に向けた情報の統合と活用
41	研究	健康・生活科学	18-5		国民ポートフォリオデータベースの構築とその分析による国民参加型健康管理の実現と医療資源の最適化を目指す、ライフスタイルサービスの創出と国家戦略
42	研究	歯学	19-1	○	口腔科学研究拠点の形成 —未来医療をめざす口腔科学—
43	施設	薬学	20-4		論理的創薬センター
44	研究	薬学	20-8		創薬パラダイムシフトのためのインキュベーション・イノベーション研究拠点の形成
45	研究	薬学	20-10		生薬・薬用植物の安定供給と開発のための基盤ネットワーク拠点の構築
46	研究	環境学	21-1		地球環境変化の早期検出に向けた温暖化等関連物質の統合型観測・評価システムの構築
47	施設	環境学	21-6		国際サンゴ礁域生物多様性研究センターの設立—研究者と市民のパートナーシップを基盤としたサンゴ礁生態系の保全と再生に関する研究拠点形成—

計画NO.	施設・研究の別	分野	学術領域番号	マスタープラン2014の重点大型研究計画	計画タイトル
48	研究	環境学	21-6		生態系インフラストラクチャーによる持続可能社会の構築
49	研究	環境学	21-9		Future Earth：地球人間圏の相互作用環の俯瞰解明に基づく地域からグローバルな持続可能性の追求
50	研究	数理科学	22-1		数理科学の深化と諸科学・産業との連携基盤構築
51	研究	物理学	23-1	○	非平衡極限プラズマ全国共同連携ネットワーク研究計画
52	施設	物理学	23-1		パワーレーザーによる高エネルギー密度科学グランドアライアンス研究計画
53	施設	物理学	23-1		極限コヒーレント光科学イノベーション: THz 波からX線までの高強度・極限コヒーレント光と物性光科学の共同研究施設
54	施設	物理学	23-1		大強度低速陽電子研究施設
55	施設	物理学	23-1		強磁場コラボラトリー2020:次世代強磁場施設の整備
56	研究	物理学	23-2		宇宙背景ニュートリノ崩壊探索
57	施設	物理学	23-2		暗黒物質の直接探索(XMASS)
58	研究	物理学	23-2		極低放射能環境でのニュートリノ研究
59	研究	物理学	23-2		光子ビームによるクォーク核物理研究計画
60	研究	物理学	23-2		高エネルギー重イオン衝突実験によるクォーク・グルーオン・プラズマ相の解明
61	施設	物理学	23-2		RIビームファクトリーの高度化による重元素科学の躍進
62	施設	物理学	23-2		高輝度大型ハドロン衝突型加速器(HL-LHC)による素粒子実験
63	施設	物理学	23-2	○	J-PARC 実験施設の高度化による物質の起源の解明
64	施設	物理学	23-2		国際リニアコライダー計画
65	施設	物理学	23-2	○	大型先端検出器による核子崩壊・ニュートリノ振動実験
66	施設	物理学	23-3		広帯域X線高感度撮像分光衛星 FORCE
67	施設	物理学	23-3		次期太陽観測衛星 SOLAR-C 計画
68	施設	物理学	23-3		IceCube-Gen2 国際ニュートリノ天文台
69	施設	物理学	23-3		南極望遠鏡計画
70	研究	物理学	23-3		ガンマ線バーストを用いた初期宇宙探査計画 HiZ-GUNDAM
71	研究	物理学	23-3		大型国際X線天文台 Athena (Advanced Telescope for High ENergy Astrophysics) への日本の参加
72	研究	物理学	23-3	○	LiteBIRD — 熱いビッグバン以前の宇宙を探索する宇宙マイクロ波背景放射偏光観測衛星

計画NO.	施設・研究の別	分野	学術領域番号	マスタープラン2014の重点大型研究計画	計画タイトル
73	研究	物理学	23-3		小型科学衛星 DIOS: Diffuse Intergalactic Oxygen Surveyor
74	施設	物理学	23-3	○	次世代赤外線天文衛星 SPICA
75	施設	地球惑星科学	24-1		極域科学のフロンティア—両極観測の新展開による地球環境変動研究—
76	研究	地球惑星科学	24-1		航空機観測による気候・地球システム科学研究の推進
77	研究	地球惑星科学	24-1		衛星による次世代全球地球観測システムの構築
78	施設	地球惑星科学	24-2	○	太陽地球系結合過程の研究基盤形成
79	研究	地球惑星科学	24-2		火星における宇宙天気・宇宙気候探査計画
80	研究	地球惑星科学	24-2		太陽系生命前駆環境の実証的解明のための統合研究プログラム
81	研究	地球惑星科学	24-3		海陸・掘削統合観測による革新的地震・噴火予測科学—沈み込み帯の時空間情報科学の挑戦—
82	研究	地球惑星科学	24-3		極低雑音・大口径ミュオン検出器アレイによる、火山ダイナミクス統合研究計画
83	研究	情報学	25-1		e-サイエンスに向けた革新的アルゴリズム基盤
84	研究	情報学	25-1		行動情報学研究基盤整備計画
85	研究	情報学	25-2		安心・安全なIT社会を実現するソフトウェアフォレンジックス基盤
86	研究	情報学	25-2		高信頼言語と形式仕様言語を並列処理系上に統合する高性能高信頼ソフトウェア生産基盤
87	研究	情報学	25-2		実践的ソフトウェア工学研究協働ネットワーク基盤の形成
88	研究	情報学	25-3		IoT時代の高度データ処理を達成する先端ハードウェア向け組込みシステム基盤
89	研究	情報学	25-3		進化型プログラマブル情報通信基盤
90	研究	情報学	25-4		トリリオンセンサー社会を支える自己進化・適応型ネットワーク研究拠点
91	研究	情報学	25-4		汎用的データ収集・利活用による分野横断学術研究基盤
92	研究	情報学	25-4		サービス統合プラットフォーム実現に向けた無線ネットワーク大規模実験装置
93	研究	情報学	25-5		ゼットバイト時代における新たな価値創造を牽引する超ビッグデータ利活用社会基盤の研究計画
94	研究	情報学	25-6	○	安全・安心社会を実現するセキュリティ・リスク制御研究機関
95	研究	情報学	25-8	○	アカデミック・ビッグデータ活用研究拠点の形成
96	研究	情報学	25-8		分子ロボティクス・イニシアティブ
97	研究	情報学	25-9		高感性情報科学技術の高度化とそれに基づく学術情報基盤の構築

計画NO.	施設・研究の別	分野	学術領域番号	マスタープラン2014の重点大型研究計画	計画タイトル
98	研究	情報学	25-10		学習ログの科学的分析に基づく高度教育情報基盤の開発
99	施設	化学	26-1		最先端分析・計測機器開発センターおよび共同利用プラットフォーム
100	研究	化学	26-2		赤外光の化学エネルギー変換による未開発資源の有効利用
101	研究	化学	26-3		異分野の智の結集により持続成長可能な社会実現を推進するハイブリッド新材料の創出
102	施設	化学	26-5	○	アト秒レーザー科学研究施設
103	研究	総合工学	27-1		最先端プラズマ科学グローバルイノベーション拠点の形成
104	研究	総合工学	27-1		先端ナノフォトニクス大規模研究計画
105	研究	総合工学	27-1-1		高性能有機自己整合フレキシブル部材研究開発拠点事業
106	研究	総合工学	27-2		統合的リスク情報システム科学の確立と社会実装を加速するネットワーク型研究基盤構築
107	研究	総合工学	27-2		社会のインタラクティブ合意形成を実現する知の統合プラットフォーム研究開発拠点 KCP-Complex の形成
108	研究	総合工学	27-3		複合原子力科学の有効利用に向けた先導的研究の推進
109	研究	総合工学	27-3		熱エネルギー高効率回収・有効利用技術の開発と社会実装への基盤形成
110	研究	総合工学	27-8	○	宇宙探査ミッションを支える宇宙技術実証プログラム
111	研究	総合工学	27-9		途上国の SDGs 達成に資する深海エネルギー・鉱物資源の開発のための実海域実証実験の実施および深海水槽の建設
112	研究	総合工学	27-9		アジアの拠点となる海洋再生可能エネルギー開発のための総合研究試験施設
113	研究	総合工学	27-9		AUV 及び海底ケーブルネットワークを利用した統合的海中・海底計測システムの構築
114	研究	総合工学	27-9		海洋環境の持続可能で安全な利用に資する情報インフラの構築
115	施設	機械工学	28-2		実証型モビリティ総合工学研究拠点
116	研究	機械工学	28-4		理論応用力学研究拠点の形成
117	研究	機械工学	28-5		新世紀世界の成長焦点に築くピコテクノロジー基盤ものづくりエコシステム拠点
118	研究	機械工学	28-8		調和エネルギー体系構築のための革新的燃焼科学の創成
119	研究	電気電子工学	29-1		空間へのエネルギーの分散化手法の確立および空間電力分布の制御に関する研究
120	研究	電気電子工学	29-3		持続可能で安心安全な社会の実現に向けた革新的電子デバイス・電子機器統合的グリーン半導体プラットフォームの構築
121	研究	電気電子工学	29-3		クライオデバイス・システム開発ネットワーク拠点の形成
122	研究	電気電子工学	29-5		安全・安心で効率的な社会基盤と知的ネットワークの実現を目指す光・無線融合型自律分散協調情報通信ネットワークの構築

計画 NO.	施設・ 研究 の別	分野	学術 領域 番号	マスタープラン 2014の重点 大型研究計画	計画タイトル
123	施設	電気電子工学	29-6		電磁波の科学的利用と商業的利用の共存・共栄
124	施設	土木工学・ 建築学	30-1		レジリエントな都市における巨大構造物の要素の破壊と脆弱性を 実寸法で評価できる世界最大容量の3方向動的加力装置および 実験施設
125	施設	土木工学・ 建築学	30-4	○	実大ストームシミュレータ(強風・火災・降雨・降雪・降雹・日射のシ ミュレータ)および気象災害サイエンスパーク
126	研究	材料工学	31-3		超顕微科学研究拠点
127	研究	材料工学	31-6		バイオマテリアル国際研究拠点の形成
128	研究	材料工学	31-6		再生医療をサポートするナノ材料科学を基盤としたビルディングブ ロックサイエンス
129	施設	材料工学	31-8		ユーザーフレンドリーな首都圏ナノアプリケーション放射光リング コンソーシアムによる材料研究イノベーション
130	研究	生命科学融合 領域	32-1		次世代統合バイオイメーキング研究所の設設計画
131	研究	生命科学融合 領域	32-1		制御性 RNA と生体分子の統合的理解による生命システムの理解 と知的基盤の構築
132	研究	理学・工学融合 領域	33-1		コスモ・シミュレータの開発ー宇宙の始まりから生命の誕生に至る 宇宙全史の探究ー
133	施設	理学・工学融合 領域	33-1		量子コンピューティング基盤技術研究開発拠点
134	研究	理学・工学融合 領域	33-1		飛行艇を用いた臨床地球惑星科学の創成
135	研究	理学・工学融合 領域	33-1		ヒューマンセントリック思考による経験知集約材料創製
136	施設	理学・工学融合 領域	33-1		第二ターゲットステーションによる中性子・ミュオン科学の新たな 展開
137	研究	理学・工学融合 領域	33-1	○	物性科学連携研究体
138	研究	理学・工学融合 領域	33-1		4次元時空間モデリング・アクティビティ解析プラットフォーム
139	研究	理学・工学融合 領域	33-1		太陽光エネルギーを利用する二酸化炭素の再資源化に基づく物 質生産
140	研究	理学・工学融合 領域	33-1		高高度滞空型無人航空機システム技術基盤確立と利用分野創成
141	施設	2分野以上に 関わる融合領域	34-1	○	新しい時代の科学技術立国を支える放射光科学の高輝度光源計 画
142	研究	2分野以上に 関わる融合領域	34-1		分散型放射光施設プラットフォームの構築による高分子科学の分 野融合を加速する産学連携イノベーション・エコシステムの創成
143	研究	2分野以上に 関わる融合領域	34-1		文理融合／医工連携・計算科学シミュレーション先端基盤国際共 同拠点
144	研究	2分野以上に 関わる融合領域	34-1		統合的生命科学研究推進プラットフォーム
145	研究	2分野以上に 関わる融合領域	34-1		インターネット・オブ・アニマルズ
146	研究	2分野以上に 関わる融合領域	34-1		水素社会に対応するゼロエミッション航空機の研究開発
147	研究	2分野以上に 関わる融合領域	34-1		人の体験を科学し拡張し未来につなげるエクスペリエンス科学研 究基盤

計画NO.	施設・研究の別	分野	学術領域番号	マスタープラン2014の重点大型研究計画	計画タイトル
148	研究	2分野以上に関わる融合領域	34-1		集中豪雨に伴う生態系の攪乱とレジームシフト
149	研究	2分野以上に関わる融合領域	34-1	○	災害リスク低減に向けた統合的な研究の推進
150	施設	2分野以上に関わる融合領域	34-1		電子ジャーナル・バックファイル等へのアクセス基盤の整備
151	研究	2分野以上に関わる融合領域	34-1		身体芸術の文理融合型学際研究と国際身体芸術アーカイブズ・コンソーシアムの設立
152	研究	2分野以上に関わる融合領域	34-1		ワイルドライフサイエンスの確立と発展のための国際連携拠点
153	研究	2分野以上に関わる融合領域	34-1		イメージング・ビッグデータ・ロボティクスとの融合による医療人工知能の開発
154	施設	2分野以上に関わる融合領域	34-1		国立沖縄自然史博物館の設立－東・東南アジアの自然の解明とビッグデータ自然史科学の実現－
155	研究	2分野以上に関わる融合領域	34-1		宇宙インフラ整備のための低コスト宇宙輸送技術の研究開発
156	研究	2分野以上に関わる融合領域	34-1		生体医工学と健康情報学の統合拠点形成
157	研究	2分野以上に関わる融合領域	34-1		あらゆる分野の因果推論を支援するデータ解析・可視化研究コミュニティの構築－1億総明晰社会実現に向けて－
158	施設	2分野以上に関わる融合領域	34-1		オープンサイエンス推進のための研究データ基盤
159	研究	2分野以上に関わる融合領域	34-1		融合社会脳研究センター構想
160	研究	2分野以上に関わる融合領域	34-1		エネルギーに関する革新的・総合的な国際共同利用・共同研究ハブの構築 － “人類に負荷を感じさせないエネルギー社会”のデザインと地球環境との共存－
161	研究	2分野以上に関わる融合領域	34-1		深海アルゴフロートの全球展開による気候・生態系変動予測の高精度化
162	研究	2分野以上に関わる融合領域	34-1		国家と社会のための科学技術総合マネージメント－データジャーナルによる異分野融合
163	研究	2分野以上に関わる融合領域	34-1		バイオマス徹底利用を駆動力とする好循環システムを生み出すための最先端技術と地域社会を繋ぐ社会実装推進拠点の創成

(出典) 本分科会にて作成

表4 学術大型研究計画一覧（区分Ⅱ）（全16件）

計画No.	施設・研究の別	分野	学術領域番号	計画タイトル
1	研究	人文・社会科学	1-1	日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画
2	研究	人文・社会科学	3-5	心の先端研究のための連携拠点(WISH)構築
3	研究	農学	14-7	わが国の産業・社会の基盤資源としての昆虫類の生物情報データベースおよび大規模標本の整備
4	研究	基礎医学	16-5	トランスオミクスアプローチに基づく革新的医学研究
5	研究	薬学	20-2	創薬基盤拠点の形成
6	施設	物理学	23-2	KEK Super B-factory 計画
7	施設	物理学	23-2	J-PARC 主リング大強度化によるニュートリノ研究の新たな展開
8	施設	物理学	23-3	CTA 国際宇宙ガンマ線天文台
9	施設	物理学	23-3	30m光学赤外線望遠鏡計画 TMT
10	施設	物理学	23-3	大型低温重力波望遠鏡計画
11	研究	地球惑星科学	24-3	高圧地球惑星科学コンソーシアム:地球惑星深部科学の学際的研究推進のための基盤形成
12	研究	地球惑星科学	24-5	“サイエンス指向型”マスペクトロメーターのR&Dで拓く宇宙・地球・生命科学
13	研究	情報学	25-8	「行間が読めて説明ができる」自然言語処理を実現するための知識と推論システムの構築
14	研究	総合工学	27-1	「スピントロニクス学術研究基盤と連携ネットワーク」拠点の整備
15	研究	総合工学	27-8	再使用観測ロケット計画
16	施設	生命科学融合領域	32-1	国際宇宙ステーションにおける宇宙生命科学的研究計画

(出典) 本分科会にて作成

表5 重点大型研究計画策定に向けたヒアリング対象提案一覧（全65件）

計画NO.	施設・研究の別	分野	学術領域番号	マスタープラン2014の重点大型研究計画	計画タイトル
3	研究	人文・社会科学	3-8		大学教育の分野別質保証に関する調査研究拠点の形成—学問分野別の教育内容・方法の特徴把握と学生追跡調査・国際比較調査に基づく大学教育カリキュラムの改善—
4	研究	人文・社会科学	6-3		広域アジアを対象とした歴史地名・歴史名称を基軸とする時空間情報基盤の構築
6	研究	人文・社会科学	11-1		公的統計マイクロデータ等の研究活用のための全国ネットワーク整備
7	研究	人文・社会科学	11-1	○	新しい社会科学としてのエビデンスベース人間科学の確立とネットワーク型大規模経年データの構築
11	研究	基礎生物学	12-1		生物の適応戦略研究のための大学連携研究拠点ネットワークの形成
13	研究	統合生物学	13-3		新世代生物多様性・生態系モニタリングのネットワークと拠点形成: 変動環境下における生態系機能の応答機構の解明とレジリエンスの向上を目指して
16	研究	農学	14-2		グローバル環境資源研究基盤構築と食・エネルギー・資源開発国際研究拠点形成
21	施設	農学	14-5		次世代を担う革新的なバイオマス生産・利活用技術の(農学学際)研究開発
23	研究	農学	14-7		カイコをモデルとした統合昆虫学拠点と新産業創生ネットワーク形成
24	研究	農学	14-8	○	東日本大震災からの復興農学拠点
26	研究	食料科学	15-1		マリンビジョン・ネットワーキング計画: 地球環境変動に対応するビッグデータ解析システム利用の広域沿岸水域生態系解析と海洋生物資源の持続的利用のための研究拠点の形成
27	研究	食料科学	15-4	○	One Health アニマルサイエンス研究拠点形成
28	研究	食料科学	15-6		超高効率な微生物探索による生物機能開発イノベーションの革新
34	研究	基礎医学	16-1	○	健康社会の創成に向けた多次元脳・生体イメージングセンターの構築: 大規模ネットワーク解析によるヒトの知能の理解、革新的疾患予防・治療法開発・創薬に向けて
35	施設	基礎医学	16-6	○	高度安全実験(BSL-4)施設を中核とした感染症研究拠点の形成
37	研究	臨床医学	17-1		医学医療情報の大規模統合解析と医用人工知能応用基盤の開発研究計画
39	研究	臨床医学	17-4	○	ゲノム医科学研究拠点の形成
41	研究	健康・生活科学	18-5		国民ポートフォリオデータベースの構築とその分析による国民参加型健康管理の実現と医療資源の最適化を目指す、ライフスタイルサービスの創出と国家戦略
42	研究	歯学	19-1	○	口腔科学研究拠点の形成 —未来医療をめざす口腔科学—
45	研究	薬学	20-10		生薬・薬用植物の安定供給と開発のための基盤ネットワーク拠点の構築
46	研究	環境学	21-1		地球環境変化の早期検出に向けた温暖化等関連物質の統合型観測・評価システムの構築
49	研究	環境学	21-9		Future Earth: 地球人間圏の相互作用環の俯瞰解明に基づく地域からグローバルな持続可能性の追求
50	研究	数理科学	22-1		数理科学の深化と諸科学・産業との連携基盤構築

計画NO.	施設・研究の別	分野	学術領域番号	マスタープラン2014の重点大型研究計画	計画タイトル
51	研究	物理学	23-1	○	非平衡極限プラズマ全国共同連携ネットワーク研究計画
61	施設	物理学	23-2		RI ビームファクトリーの高度化による重元素科学の躍進
62	施設	物理学	23-2		高輝度大型ハドロン衝突型加速器(HL-LHC)による素粒子実験
63	施設	物理学	23-2	○	J-PARC 実験施設の高度化による物質の起源の解明
65	施設	物理学	23-2	○	大型先端検出器による核子崩壊・ニュートリノ振動実験
72	研究	物理学	23-3	○	LiteBIRD — 熱いビッグバン以前の宇宙を探索する宇宙マイクロ波背景放射偏光観測衛星
74	施設	物理学	23-3	○	次世代赤外線天文衛星 SPICA
78	施設	地球惑星科学	24-2	○	太陽地球系結合過程の研究基盤形成
81	研究	地球惑星科学	24-3		海陸・掘削統合観測による革新的地震・噴火予測科学 — 沈み込み帯の時空間情報科学の挑戦 —
82	研究	地球惑星科学	24-3		極低雑音・大口径ミュオン検出器アレイによる、火山ダイナミクス統合研究計画
90	研究	情報学	25-4		トリリオンセンサー社会を支える自己進化・適応型ネットワーク研究拠点
94	研究	情報学	25-6	○	安全・安心社会を実現するセキュリティ・リスク制御研究機関
95	研究	情報学	25-8	○	アカデミック・ビッグデータ活用研究拠点の形成
96	研究	情報学	25-8		分子ロボティクス・イニシアティブ
98	研究	情報学	25-10		学習ログの科学的分析に基づく高度教育情報基盤の開発
99	施設	化学	26-1		最先端分析・計測機器開発センターおよび共同利用プラットフォーム
102	施設	化学	26-5	○	アト秒レーザー科学研究施設
103	研究	総合工学	27-1		最先端プラズマ科学グローバルイノベーション拠点の形成
108	研究	総合工学	27-3		複合原子力科学の有効利用に向けた先導的研究の推進
109	研究	総合工学	27-3		熱エネルギー高効率回収・有効利用技術の開発と社会実装への基盤形成
110	研究	総合工学	27-8	○	宇宙探査ミッションを支える宇宙技術実証プログラム
116	研究	機械工学	28-4		理論応用力学研究拠点の形成
117	研究	機械工学	28-5		新世紀世界の成長焦点に築くピコテクノロジー基盤ものづくりエコシステム拠点
118	研究	機械工学	28-8		調和エネルギー体系構築のための革新的燃焼科学の創成
120	研究	電気電子工学	29-3		持続可能で安心安全な社会の実現に向けた革新的電子デバイス・電子機器統合的グリーン半導体プラットフォームの構築

計画 NO.	施設・ 研究 の別	分野	学術 領域 番号	マスタープラン 2014の重点 大型研究計画	計画タイトル
122	研究	電気電子工学	29-5		安全・安心で効率的な社会基盤と知的ネットワークの実現を目指す 光・無線融合型自律分散協調情報通信ネットワークの構築
124	施設	土木工学・ 建築学	30-1		レジリエントな都市における巨大構造物の要素の破壊と脆弱性を 実寸法で評価できる世界最大容量の3方向動的加力装置および実 験施設
125	施設	土木工学・ 建築学	30-4	○	実大ストームシミュレータ(強風・火災・降雨・降雪・降雹・日射のシ ミュレータ)および気象災害サイエンスパーク
127	研究	材料工学	31-6		バイオマテリアル国際研究拠点の形成
129	施設	材料工学	31-8		ユーザーフレンドリーな首都圏ナノアプリケーション放射光リングコ ンソーシアムによる材料研究イノベーション
130	研究	生命科学融合 領域	32-1		次世代統合バイオイメージング研究所の設立計画
134	研究	理学・工学融合 領域	33-1		飛行艇を用いた臨床地球惑星科学の創成
136	施設	理学・工学融合 領域	33-1		第二ターゲットステーションによる中性子・ミュオン科学の新たな展 開
137	研究	理学・工学融合 領域	33-1	○	物性科学連携研究体
140	研究	理学・工学融合 領域	33-1		高高度滞空型無人航空機システム技術基盤確立と利用分野創成
141	施設	2分野以上に 関わる融合領域	34-1	○	新しい時代の科学技術立国を支える放射光科学の高輝度光源計 画
144	研究	2分野以上に 関わる融合領域	34-1		統合的生命科学研究推進プラットフォーム
149	研究	2分野以上に 関わる融合領域	34-1	○	災害リスク低減に向けた統合的な研究の推進
150	施設	2分野以上に 関わる融合領域	34-1		電子ジャーナル・バックファイル等へのアクセス基盤の整備
156	研究	2分野以上に 関わる融合領域	34-1		生体医工学と健康情報学の統合拠点形成
159	研究	2分野以上に 関わる融合領域	34-1		融合社会脳研究センター構想
161	研究	2分野以上に 関わる融合領域	34-1		深海アルゴフロートの全球展開による気候・生態系変動予測の高 精度化

(出典) 本分科会にて作成

表6 重点大型研究計画一覧（全28件）

計画NO.	施設・研究の別	分野	学術領域番号	マスタープラン2014の重点大型研究計画	計画タイトル
7	研究	人文・社会科学	11-1	○	新しい社会科学としてのエビデンスベース人間科学の確立とネットワーク型大規模経年データの構築
11	研究	基礎生物学	12-1		生物の適応戦略研究のための大学連携研究拠点ネットワークの形成
16	研究	農学	14-2		グローバル環境資源研究基盤構築と食・エネルギー・資源開発国際研究拠点形成
27	研究	食料科学	15-4	○	One Health アニマルサイエンス研究拠点形成
34	研究	基礎医学	16-1	○	健康社会の創成に向けた多次元脳・生体イメージングセンターの構築:大規模ネットワーク解析によるヒトの知能の理解、革新的疾患予防・治療法開発・創薬に向けて
35	施設	基礎医学	16-6	○	高度安全実験(BSL-4)施設を中核とした感染症研究拠点の形成
39	研究	臨床医学	17-4	○	ゲノム医科学研究拠点の形成
42	研究	歯学	19-1	○	口腔科学研究拠点の形成 —未来医療をめざす口腔科学—
45	研究	薬学	20-10		生薬・薬用植物の安定供給と開発のための基盤ネットワーク拠点の構築
46	研究	環境学	21-1		地球環境変化の早期検出に向けた温暖化等関連物質の統合型観測・評価システムの構築
50	研究	数理科学	22-1		数理科学の深化と諸科学・産業との連携基盤構築
51	研究	物理学	23-1	○	非平衡極限プラズマ全国共同連携ネットワーク研究計画
63	施設	物理学	23-2	○	J-PARC 実験施設の高度化による物質の起源の解明
65	施設	物理学	23-2	○	大型先端検出器による核子崩壊・ニュートリノ振動実験
72	研究	物理学	23-3	○	LiteBIRD — 熱いビッグバン以前の宇宙を探索する宇宙マイクロ波背景放射偏光観測衛星
74	施設	物理学	23-3	○	次世代赤外線天文衛星 SPICA
78	施設	地球惑星科学	24-2	○	太陽地球系結合過程の研究基盤形成
95	研究	情報学	25-8	○	アカデミック・ビッグデータ活用研究拠点の形成
102	施設	化学	26-5	○	アト秒レーザー科学研究施設
103	研究	総合工学	27-1		最先端プラズマ科学グローバルイノベーション拠点の形成
110	研究	総合工学	27-8	○	宇宙探査ミッションを支える宇宙技術実証プログラム
124	施設	土木工学・建築学	30-1		レジリエントな都市における巨大構造物の要素の破壊と脆弱性を実寸法で評価できる世界最大容量の3方向動的加力装置および実験施設
130	研究	生命科学融合領域	32-1		次世代統合バイオイメージング研究所の設立計画
137	研究	理学・工学融合領域	33-1	○	物性科学連携研究体

計画 NO.	施設・ 研究 の別	分野	学術 領域 番号	マスタープラ ン2014の重点 大型研究計画	計画タイトル
141	施設	2分野以上に関 わる融合領域	34-1	○	新しい時代の科学技術立国を支える放射光科学の高輝度光源計 画
149	研究	2分野以上に関 わる融合領域	34-1	○	災害リスク低減に向けた統合的な研究の推進
150	施設	2分野以上に関 わる融合領域	34-1		電子ジャーナル・バックファイル等へのアクセス基盤の整備
159	研究	2分野以上に関 わる融合領域	34-1		融合社会脳研究センター構想

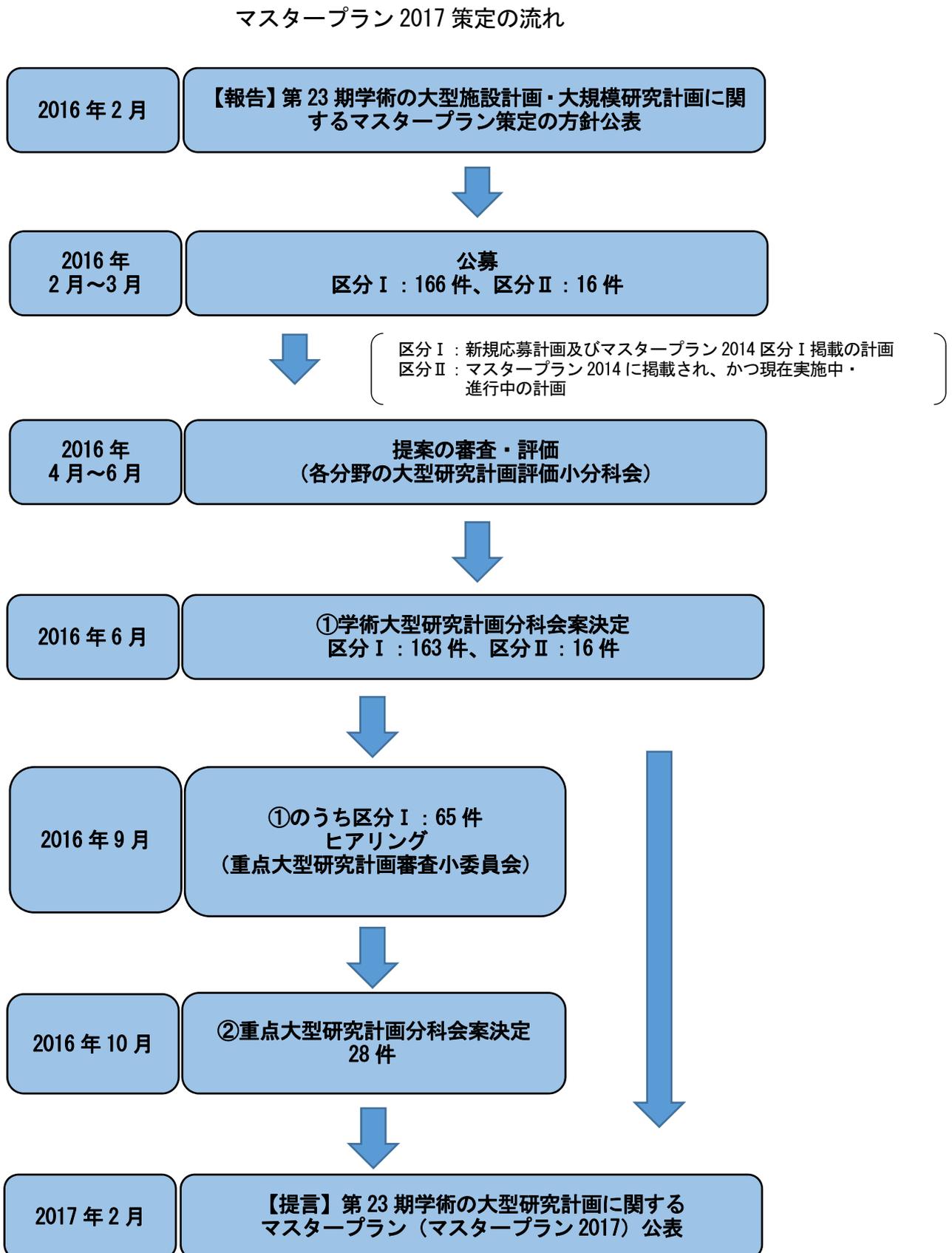
(出典) 本分科会にて作成

<参考文献>

- [1] 日本学術会議科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会、提言「学術の大型施設計画・大規模研究計画—企画・推進策の在り方とマスタープラン策定について—」、2010年3月17日.
- [2] 日本学術会議科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会、報告「学術の大型施設計画・大規模研究計画 マスタープラン2011」、2011年9月28日.
- [3] 日本学術会議科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会、提言「第22期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン2014）」、2014年2月28日.
- [4] 日本学術会議日本の展望委員会、提言「日本の展望—学術からの提言2010」、2010年4月5日.
- [5] 日本学術会議科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会、報告「第23期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針」、2016年2月2日.
- [6] 日本学術会議、回答「国際リニアコライダー計画に関する所見」、2013年9月30日.
- [7] 日本学術会議、声明「科学者の行動規範について—改訂版—」、2013年1月25日.

<参考資料>

参考資料 1 マスタープラン 2017 策定の流れ



参考資料2 学術研究領域一覧

No.	分野別委員会	学術領域番号	学術研究領域	No.	分野別委員会	学術領域番号	学術研究領域
1	言語・文学委員会	1-1	日本文学	6	地域研究委員会	6-1	地域研究
		1-2	外国文学			6-2	国際協力学
		1-3	日本語学・外国語学・言語学			6-3	地域情報学
		1-4	日本語教育・外国語教育			6-4	地理学
2	哲学委員会	2-1	哲学・倫理学			6-5	地域学
		2-2	アジア思想			6-6	地理情報科学
		2-3	日本思想			6-7	人類学
		2-4	宗教学・宗教史			6-8	人間地球環境学
		2-5	美学・芸術学			6-9	地域統合論
		2-6	応用哲学			6-10	災害復興論
		2-7	比較思想	7	法学委員会	7-1	比較文化と結びついた比較法
		2-8	科学哲学			7-2	法学のグローバル化
3	心理学・教育学委員会	3-1	人間社会の持続的発展にこたえる心の科学			7-3	開発法学
		3-2	動物行動の柔軟な適応と集団行動創発			7-4	現代の法教育
		3-3	法と人間科学			7-5	社会と市民の持続可能性と法
		3-4	融合的社会脳			7-6	情報化社会・IT社会と法
		3-5	心の先端研究			7-7	近代の法システムの再構築
		3-6	乳幼児保育・教育			7-8	地球環境と法
		3-7	学校教育・教科教育			7-9	ジェンダーと法
		3-8	高等教育・生涯教育・教師教育			7-10	法学の可視化
		3-9	教育行財政・国際教育	8	政治学委員会	8-1	政治思想・政治史
		3-10	教育学理論・教育学研究法			8-2	比較政治
4	社会学委員会	4-1	リスク社会			8-3	行政学・地方自治
		4-2	情報社会			8-4	国際政治
		4-3	持続可能社会			8-5	政治過程
		4-4	グローバル化			8-6	統計調査・意識調査
		4-5	多文化共生・マイノリティ			8-7	社会保障と政治
		4-6	社会格差・社会階層と移動			8-8	ジェンダーと政治
		4-7	社会調査			8-9	政治関連データベース
		4-8	ジェンダー研究			8-10	政治学総合
		4-9	社会システム学	9	経済学委員会	9-1	理論経済学
		4-10	社会福祉学			9-2	経済学説・経済思想
5	史学委員会	5-1	史学一般			9-3	経済統計・人口統計
		5-2	日本史			9-4	応用経済学
		5-3	東洋史			9-5	経済政策
		5-4	西洋史			9-6	財政・公共経済学
		5-5	考古学			9-7	金融・ファイナンス
		5-6	世界史			9-8	経済史
		5-7	史料学			9-9	行動経済学・実験経済学

No.	分野別委員会	学術領域番号	学術研究領域
10	経営学委員会	10-1	経営戦略論
		10-2	経営組織論
		10-3	経営管理論
		10-4	マーケティング
		10-5	人材開発論
		10-6	経営工学
		10-7	経営情報学
		10-8	財務会計論
		10-9	管理会計論
		10-10	監査論
11	人文・社会科学融合領域	11-1	エビデンスにもとづく政策形成
		11-2	人文・社会科学の国際発信
		11-3	史資料調査とアーカイブ構築
		11-4	ジェンダー研究
		11-5	社会的包摂 / 排除の研究
		11-6	アジアの学術交流
12	基礎生物学委員会	12-1	基礎生命科学の知の拠点形成
		12-2	ヒト多様性のゲノム科学
		12-3	生物多様性のゲノム・環境基盤解明
		12-4	生命のシステムレベル研究
		12-5	バイオイメージング
		12-6	発生生物学・細胞生物学
		12-7	海洋生物の探査と利用
		12-8	動物科学
		12-9	植物科学
		12-10	微生物科学
13	統合生物学委員会	13-1	バイオインフォマティクス
		13-2	中・大型ワイルドライフの保全
		13-3	生態・環境
		13-4	人類の由来
		13-5	過去・現在・未来をつなぐ自然史
		13-6	生物進化
		13-7	自然史財の保護と利用の高度化

No.	分野別委員会	学術領域番号	学術研究領域
14	農学委員会	14-1	食の安全保障
		14-2	グローバル食・エネルギー資源開発と生産
		14-3	次世代ゲノム育種
		14-4	農業環境システムイノベーション
		14-5	持続共生社会創成
		14-6	持続的森林管理とバイオマスの利用
		14-7	昆虫科学の大規模基盤構築と近未来技術
		14-8	大規模変動対応型土壌保全
		14-9	植物保護
15	食料科学委員会	15-1	マリンイノベーション
		15-2	新飼料種苗と新家畜品種候補の探索と創成
		15-3	循環型農業システムの構築
		15-4	産業動物・伴侶動物ライフイノベーション
		15-5	ヒトと動物の共通感染症
		15-6	微生物機能開発
		15-7	天然物・植物ケミストリー
		15-8	統合情報システム化によるフードイノベーション
		15-9	水・土・生物の微生物叢の網羅的解析と利用
16	基礎医学委員会	16-1	脳による心身の機能制御とその破綻
		16-2	生体機能システムの理解・予測・制御
		16-3	形態・細胞生物医科学
		16-4	免疫
		16-5	ヒト生命情報統合研究
		16-6	病原体学
		16-7	工学技術による医学・医療の革新
		16-8	実験動物
17	臨床医学委員会	17-1	臨床医学と基礎医学の知の結集
		17-2	再生医療
		17-3	臨床医学における最先端イメージング
		17-4	疾患ゲノム/ゲノムコホート
		17-5	人の健康を守る総合的放射線研究
18	健康・生活科学委員会	18-1	環境・生命・健康統合研究
		18-2	長寿社会を推進する学際的ジェロントロジーの構築
		18-3	ケアサイエンス研究
		18-4	安全と安心の探究
		18-5	国民の生活と健康寿命

No.	分野別委員会	学術領域番号	学術研究領域
19	歯学委員会	19-1	先端口腔科学研究
20	薬学委員会	20-1	精密合成とグリーンケミストリーの基盤整備
		20-2	ケミカルバイオロジーの研究基盤整備
		20-3	ゲノム解析とインフォマティクスによる医薬品開発
		20-4	疾患生物学に基づく分子標的薬の開発
		20-5	抗体医薬等に対するバイオロジクス研究
		20-6	バイオ(分子)イメージングや動態予測の技術開発
		20-7	ナノテクノロジーを基盤としたDDS開発と創薬
		20-8	遺伝子情報の医薬品開発や個別化医療への応用
		20-9	遺伝子治療や再生医療等の細胞・組織の医薬応用
		20-10	生薬等医薬資源の科学の構築と医療展開
21	環境学委員会	21-1	環境計測・動態解析・モデリング学
		21-2	環境影響・リスク評価学
		21-3	環境技術
		21-4	資源循環学
		21-5	自然共生学
		21-6	生物多様性保全学
		21-7	環境計画・政策学
		21-8	環境教育
		21-9	持続可能性科学
		21-10	放射線・化学物質健康影響科学
22	数理科学委員会	22-1	数理科学
23	物理学委員会	23-1	物性物理学・一般物理学
		23-2	素粒子物理学・原子核物理学
		23-3	天文学・宇宙物理学
24	地球惑星科学委員会	24-1	大気・水圏科学
		24-2	宇宙惑星科学
		24-3	固体地球科学
		24-4	地球生命科学
		24-5	地球人間圏科学

No.	分野別委員会	学術領域番号	学術研究領域	
25	情報学委員会	25-1	情報基礎学	
		25-2	ソフトウェア学	
		25-3	情報システム工学	
		25-4	情報ネットワーク工学	
		25-5	データ工学	
		25-6	情報セキュリティ・ディペンダビリティ工学	
		25-7	知覚情報学	
		25-8	知能情報学	
		25-9	メディア情報学	
		25-10	社会情報学	
26	化学委員会	26-1	分析化学・計測科学	
		26-2	無機化学	
		26-3	高分子	
		26-4	有機化学	
		26-5	物理化学・理論	
		26-6	生物化学・バイオ	
		26-7	環境化学・地球化学	
		26-8	材料・ナノ科学	
		26-9	エネルギー	
		26-10	健康・安心	
27	総合工学委員会	27-1	応用物理学 (学術研究小領域) 1.統合エレクトロニクス研究領域 2.新材料・プロセス技術研究領域 3.基礎基盤、新分野開拓領域 4.ライフ・バイオ領域 5.環境・エネルギー領域 6.安心・安全技術領域	
			27-2	知の統合学
			27-3	エネルギー学
			27-4	安全工学

No.	分野別 委員会	学術領域 番号	学術研究領域
27	総合工学 委員会 (続き)	27-5	放射線工学 (学術研究小領域) 1.放射線利用工学 2.放射線生物影響学
		27-6	グローバル資源学
		27-7	計算科学 (学術研究小領域) 1.計算科学 2.計算基盤
		27-8	航空宇宙工学
		27-9	船舶・海洋工学
		27-10	プラズマ科学
		28	機械工学 委員会
28-2	熱・流体力学		
28-3	機械力学・制御		
28-4	計算力学		
28-5	設計・生産工学		
28-6	マイクロナノ工学		
28-7	ロボティクス・機械システム		
28-8	環境・エネルギー工学		
29	電気電子 工学委員会	29-1	電力応用システム技術
		29-2	計測・制御技術
		29-3	電子デバイス・電子機器
		29-4	情報通信基盤科学技術
		29-5	情報通信社会基盤システム
		29-6	光・電波技術
		29-7	医療電子技術
30	土木工学・ 建築学 委員会	30-1	構造工学
		30-2	地盤工学
		30-3	水工学
		30-4	防災・減災学
		30-5	運輸・交通工学
		30-6	都市・地域・建築計画学
		30-7	環境・設備・エネルギー工学
		30-8	歴史・景観・デザイン学
		30-9	建設生産・建設材料学
		30-10	ストックマネジメント

No.	分野別 委員会	学術領域 番号	学術研究領域
31	材料工学 委員会	31-1	材料システム工学
		31-2	材料プロセス工学
		31-3	材料解析・診断学
		31-4	社会インフラ材料学
		31-5	グリーン・エネルギー材料学
		31-6	医療・バイオ材料学
		31-7	デバイス材料学
		31-8	材料ゲノム工学
		31-9	理論・計算材料工学
		31-10	材料の物理と科学 (材料リテラシー学)
32	生命科学 融合領域	32-1	生命科学融合領域
33	理学・工学 融合領域	33-1	理学・工学融合領域
34	人文・社会科学、 生命科学、理学・ 工学のうち2分 野以上に関わる 融合領域	34-1	人文・社会科学(第一部)、 生命科学(第二部)、理学・ 工学(第三部)のうち2分野 以上に関わる融合領域

第23期学術の大型研究計画に関するマスタープラン
「学術大型研究計画」の公募について

日本学術会議 科学者委員会
学術の大型研究計画検討分科会
委員長 相原 博昭

1. マスタープランの目的と概要

「学術の大型研究計画に関するマスタープラン」（以下、「マスタープラン」という。）は、学術全般を展望・体系化しつつ、各学術分野が必要とする大型研究計画を網羅し、我が国の大型計画のあり方について、一定の指針を与えることを目的とするものです。

第21期に引き続き、第22期日本学術会議では、2014年2月に提言「第22期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン2014）」（以下、「マスタープラン2014」という。）を公表しました。

しかし、科学・技術の急速な進歩と、国際的な競争の激化を鑑みますと、こうした大型施設計画・大規模研究計画は、社会や国民の理解を得ながら適切に更新していく必要があります。

このため、第23期日本学術会議においても、学術の最新の発展動向を反映した新たなマスタープランの策定について審議してきました。その結果、2016年2月に報告「第23期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針」（注1）を発出し、2017年年頭を目途にマスタープラン（以下、「マスタープラン2017」という。）を策定することに致しました。

マスタープラン2017では、マスタープラン2014の改定という形で、学術分野のビジョン・体系に立脚した大型施設計画・大規模研究計画を「学術大型研究計画」として策定します。さらに、この学術大型研究計画の中から、諸観点から速やかに実施すべきと判断した大型施設計画・大規模研究計画を「重点大型研究計画」として選択します。

なお、本マスタープランは、あくまで我が国の大型計画のあり方について指針を与えるものであり、予算への直接の反映等を意図するものではないことを申し添えます。

2. 学術大型研究計画の公募

報告「第23期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針」にしたがい、「学術大型研究計画」を公募します。本計画に関して構想を有する科学者コミュニティからの積極的な応募を期待しています。応募された提案は、日本学術会議の分野別委員会、部または本分科会において一定の絞り込みを行った後、本分科会が最終的な取り纏めを行います。

3. 公募の対象

公募の対象は下記のとおりです。

区分Ⅰ：学術大型研究計画（新規応募計画及びマスタープラン2014区分Ⅰ掲載の計画）
実施期間5-10年程度、及び予算総額概ね数十億円超（上限は特に定めない）の予算規模を有する、学術分野のビジョン・体系に立脚した大型施設計画もしくは大規模研究計画とします。ここで、各学

術大型研究計画は、学術の大型研究計画検討分科会が制定した「学術研究領域」(注2)のいずれかに分類されるものとします。なお、今回より融合領域(注3)が新設されております。

大型施設計画とは、施設の建設(装置、設備、運営費等を含みます)を行う計画です。また、大規模研究計画は、科学研究費補助金等では実施が困難であり、個別研究プロジェクトの枠を超えた分野の根幹となる、設備、ネットワーク構築、データ集積、運営費、人件費等の経費を必要とする計画です。

※マスタープラン2014で選定された学術大型研究計画についても、再度ご応募ください。

区分Ⅱ：学術大型研究計画(マスタープラン2014に掲載され、かつ現在実施中・進行中の計画)

マスタープラン2014に掲載され、かつ現在実施中・進行中の大型施設計画もしくは大規模研究計画については、マスタープラン2017の学術大型研究計画の別表として記載します。ただし、終了年度は2018年度以降であることを要件とします。また、各学術大型研究計画は、学術の大型研究計画検討分科会が制定した「学術研究領域」(注2)のいずれかに分類されるものとします。なお、今回より融合領域(注3)が新設されております。

※マスタープラン2014の区分Ⅱに掲載された計画で、マスタープラン2017に区分Ⅱとしての掲載を希望する場合も、再度ご応募ください。

4. 提案

学術大型研究計画の提案は、(i) 研究・教育機関の長または部局長等、(ii) 日本学術会議会員、連携会員、(iii) 学協会長等、が行うことができます。ただし、(i) 及び (iii) は最大3件まで、(ii) は1件のみ、それぞれ提案することができます。

なお、今回は、マスタープラン2014と異なり、日本学術会議会員及び連携会員の推薦を必要としません。

また、策定の公平性を確保するため、提案者が、その当該提案の審査・評価に関与することはありません。

5. 公募期間

2016年2月8日(月)～2016年3月31日(木)

6. 応募方法

区分Ⅰ は、URL <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0060.html>

区分Ⅱ は、URL <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0062.html>

の様式にしたがい提案書を作成し、ウェブを通じて応募を行って下さい。

なお、今回使用している内閣府のシステムでは、応募を受け付けたことを電子メールで通知する機能はありません。そのため、投稿後直ちに受領のメールが皆様に届くことはありません。

その代わりに、皆様から戴いた応募データを事務局が処理をして、個別に受領したことをお伝えするようにいたします。全体の応募件数にも左右されますが、原則として、皆様が応募されてから2日以内(土日、祝日を除く)に受領のメールを送らせていただきます。

7. 提案書の記載内容

記入項目、内容、分量等の詳細については、上記様式を参照して下さい。

8. ご質問、お問い合わせ

本件に関するお問い合わせは、以下宛にメールフォームでお問い合わせ下さい。

日本学術会議事務局審議第二担当 <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0064.html>

また、多数の方から質問があったものについては、FAQ を日本学術会議のウェブサイト内に順次用意しますのでご覧下さい。

9. その他

マスタープランに掲載することになった学術大型研究計画については、日本学術会議が意思の表出（提言、報告等）をするための資料や、英文説明資料を作成していただくこととなりますので、よろしくお願い致します。

（注1）URL <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-h160202.pdf>

（注2）URL <http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/ogata/pdf23/ryoiki.pdf>

（注3）融合領域：今回より、融合領域として、「人文・社会科学融合領域（第一部）」に加え、「生命科学融合領域（第二部）」、「理学・工学融合領域（第三部）」、「人文・社会科学（第一部）、生命科学（第二部）、理学・工学（第三部）のうち2分野以上に関わる融合領域」を追加いたしました。

参考資料 4 各分野の大型研究計画評価小分科会委員一覧

評価小分科会 委員一覧（敬称略）											※平成28年3月24日 日本学術会議第226回幹事会決定				
対応分野別 No.コード	1～11			12			13			14			15		
評価小分科会 名／人数	人文・社会科学分野の大型研究 計画評価小分科会			基礎生物学分野の 大型研究計画評価小分科会			統合生物学分野の 大型研究計画評価小分科会			農学分野の 大型研究計画評価小分科会			食料科学分野の 大型研究計画評価小分科会		
1	大塚啓二郎	第一部会員		岸本 健雄	第二部会員		巖佐 庸	第二部会員		大杉 立	第二部会員		尾崎 博	第二部会員	
2	岡田真美子	第一部会員		近藤 孝男	第二部会員		長野 哲雄	第二部会員		大政 謙次	第二部会員		甲斐知恵子	第二部会員	
3	金子 元久	第一部会員		塩見美喜子	第二部会員		山極 壽一	第二部会員		川井 秀一	第二部会員		嶋田 透	第二部会員	
4	梶 茂樹	第一部会員		嶋田 透	第二部会員		斎藤 成也	連携会員		倉田 のり	第二部会員		清水 誠	第二部会員	
5	河田 潤一	第一部会員		城石 俊彦	第二部会員		辻 和希	連携会員		嶋田 透	第二部会員		渡部 終五	第二部会員	
6	川本 明人	第一部会員		中野 明彦	第二部会員		馬場 悠男	連携会員		奥野 員敏	連携会員		植田 和光	連携会員	
7	久保 亨	第一部会員		西村いくこ	第二部会員		美宅 成樹	連携会員		小野 正人	連携会員		木村 直子	連携会員	
8	小松 久男	第一部会員		福田 裕穂	第二部会員		吉田 丈人	連携会員		立川 雅司	連携会員		清水 浩	連携会員	
9	小森田秋夫	第一部会員		藤吉 好則	第二部会員		渡辺 茂	連携会員		松本 宏	連携会員		眞鍋 昇	連携会員	
10	杉田 敦	第一部会員								間藤 徹	連携会員		三輪 清志	連携会員	
11	恒吉 僚子	第一部会員								宮崎 毅	連携会員				
12	町村 敬志	第一部会員													
13	松本 恒雄	第一部会員													
14	宮崎 恒二	第一部会員													
15	山川 充夫	第一部会員													
委員長	小森田秋夫	第一部会員		中野 明彦	第二部会員		巖佐 庸	第二部会員		川井 秀一	第二部会員		清水 誠	第二部会員	
対応分野別 No.コード	16			17			18			19			20		
評価小分科会 名／人数	基礎医学分野の 大型研究計画評価小分科会			臨床医学分野の 大型研究計画評価小分科会			健康・生活科学分野の 大型研究計画評価小分科会			歯学分野の 大型研究計画評価小分科会			薬学分野の 大型研究計画評価小分科会		
1	石川 冬木	第二部会員		磯部 光章	第二部会員		秋葉 澄伯	第二部会員		東 みゆき	第二部会員		清水 元治	第二部会員	
2	笹川 千尋	第二部会員		春日 雅人	第二部会員		太田喜久子	第二部会員		古谷野 潔	第二部会員		長野 哲雄	第二部会員	
3	清水 孝雄	第二部会員		戸山 芳昭	第二部会員		小川 宣子	第二部会員		丹沢 秀樹	第二部会員		平井みどり	第二部会員	
4	永井 良三	第二部会員		永井 良三	第二部会員		片田 範子	第二部会員		永井 良三	第二部会員		奥 直人	連携会員	
5	本間 さと	第二部会員		別役 智子	第二部会員		神谷 研二	第二部会員		山口 朗	第二部会員		堅田 利明	連携会員	
6	小幡 裕一	連携会員		寶金 清博	第二部会員		田畑 泉	第二部会員		朝田 芳信	連携会員		菅野 純	連携会員	
7	高濱 洋介	連携会員		前原 喜彦	第二部会員		長野 哲雄	第二部会員		佐々木啓一	連携会員		佐治 英郎	連携会員	
8	田中 啓治	連携会員		宮坂 信之	第二部会員		那須 民江	第二部会員		中村 誠司	連携会員		橋田 充	連携会員	
9	藤本 豊士	連携会員		桃井真里子	第二部会員		吉野 博	第三部会員		平田 雅人	連携会員		望月 眞弓	連携会員	
10	三品 昌美	連携会員		森 正樹	第二部会員		澁川 祥子	連携会員		前田 健康	連携会員		安原 真人	連携会員	
11				山下 俊一	第二部会員		宮地 元彦	連携会員		宮崎 隆	連携会員				
12				山脇 成人	第二部会員					村上 伸也	連携会員				
13				小池 和彦	連携会員					森山 啓司	連携会員				
14				中畑 龍俊	連携会員					矢谷 博文	連携会員				
15															
委員長	清水 孝雄	第二部会員		中畑 龍俊	連携会員		那須 民江	第二部会員		古谷野 潔	第二部会員		清水 元治	第二部会員	
対応分野別 No.コード	21			22			23			24			25		
評価小分科会 名／人数	環境学分野の 大型研究計画評価小分科会			数理学分野の 大型研究計画評価小分科会			物理学分野の 大型研究計画評価小分科会			地球惑星科学分野の 大型研究計画評価小分科会			情報学分野の 大型研究計画評価小分科会		
1	岩本 康志	第一部会員		相原 博昭	第三部会員		相原 博昭	第三部会員		相原 博昭	第三部会員		荒川 薫	第三部会員	
2	大政 謙次	第二部会員		北川源四郎	第三部会員		岡 眞	第三部会員		大久保修平	第三部会員		石田 亨	第三部会員	
3	西條 辰義	第一部会員		小谷 元子	第三部会員		須藤 靖	第三部会員		川口淳一郎	第三部会員		尾家 祐二	第三部会員	
4	中村 尚	第三部会員		坪井 俊	第三部会員		田島 節子	第三部会員		木村 学	第三部会員		北川源四郎	第三部会員	
5	吉野 博	第三部会員		萩原 一郎	第三部会員		観山 正見	第三部会員		高橋 桂子	第三部会員		喜連川 優	第三部会員	
6	青柳みどり	連携会員		石井志保子	連携会員		伊藤 公孝	連携会員		中村 尚	第三部会員		柴山 悦哉	第三部会員	
7	石川 幹子	連携会員		小澤 徹	連携会員		江口 徹	連携会員		氷見山幸夫	第三部会員		土井美和子	第三部会員	
8	岡本 耕平	連携会員		楠岡 成雄	連携会員		河野 公俊	連携会員		藤井 良一	第三部会員		徳田 英幸	第三部会員	
9	工藤由貴子	連携会員		竹村 彰通	連携会員		駒宮 幸男	連携会員		大谷 栄治	連携会員		萩谷 昌己	第三部会員	
10	櫻井 武司	連携会員		森田 康夫	連携会員		田村 裕和	連携会員		北里 洋	連携会員		東野 輝夫	第三部会員	
11							森 初果	連携会員		永原 裕子	連携会員		安浦 寛人	第三部会員	
12							森 正樹	連携会員		西山 忠男	連携会員				
13										花輪 公雄	連携会員				
14										春山 成子	連携会員				
15										益田 晴恵	連携会員				
委員長	吉野 博	第三部会員		坪井 俊	第三部会員		岡 眞	第三部会員		大久保修平	第三部会員		喜連川 優	第三部会員	

対応分野別 No.コード	26		27		28		29		30	
評価小分科会 名/人数	化学分野の 大型研究計画評価小分科会		総合工学分野の 大型研究計画評価小分科会		機械工学分野の 大型研究計画評価小分科会		電気電子工学分野の 大型研究計画評価小分科会		土木工学・建築学分野の 大型研究計画評価小分科会	
1	阿尻 雅文	第三部会員	新井 民夫	第三部会員	新井 民夫	第三部会員	大西 公平	第三部会員	磯部 雅彦	第三部会員
2	加藤 昌子	第三部会員	川口淳一郎	第三部会員	有信 陸弘	第三部会員	柴山 悦哉	第三部会員	小松 利光	第三部会員
3	川合 眞紀	第三部会員	柴山 悦哉	第三部会員	岡崎 健	第三部会員	波多野睦子	第三部会員	高原 淳	第三部会員
4	北川 進	第三部会員	鈴置 保雄	第三部会員	厨川 常元	第三部会員	保立 和夫	第三部会員	吉野 博	第三部会員
5	高原 淳	第三部会員	中村 崇	第三部会員	柴山 悦哉	第三部会員	吉田 進	第三部会員	依田 照彦	第三部会員
6	中村 栄一	第三部会員	萩原 一郎	第三部会員	福山満由美	第三部会員	大橋 弘美	連携会員	小峯 秀雄	連携会員
7	橋本 和仁	第三部会員	渡辺美代子	第三部会員	藤井 孝藏	第三部会員	河村 篤男	連携会員	仙田 満	連携会員
8	藤田 照典	第三部会員	荒川 泰彦	連携会員	金子 真	連携会員	河野 隆二	連携会員	田中 稲子	連携会員
9	山内 薫	第三部会員	河田 聡	連携会員	岸本喜久雄	連携会員	小林 一哉	連携会員	道奥 康治	連携会員
10	渡辺 芳人	第三部会員	柴田 徳思	連携会員	北村 隆行	連携会員	津田 俊隆	連携会員	望月 常好	連携会員
11	岩澤 康裕	連携会員	原 辰次	連携会員	谷下 一夫	連携会員	日高 邦彦	連携会員	米田 雅子	連携会員
12	栗原 和枝	連携会員	松岡 猛	連携会員	新美 智秀	連携会員			和田 章	連携会員
13	巽 和行	連携会員	矢川 元基	連携会員	菱田 公一	連携会員				
14			吉村 忍	連携会員	前田龍太郎	連携会員				
15					光石 衛	連携会員				
委員長	中村 栄一	第三部会員	荒川 泰彦	連携会員	新井 民夫	第三部会員	吉田 進	第三部会員	依田 照彦	第三部会員
対応分野別 No.コード	31									
評価小分科会 名/人数	材料工学分野の 大型研究計画評価小分科会									
1	片岡 一則	第三部会員								
2	高原 淳	第三部会員								
3	中嶋 英雄	第三部会員								
4	中村 崇	第三部会員								
5	細野 秀雄	第三部会員								
6	松宮 徹	第三部会員								
7	吉田 豊信	第三部会員								
8	小関 敏彦	連携会員								
9	長井 寿	連携会員								
10	埴 隆夫	連携会員								
11	森口 祐一	連携会員								
12	山口 周	連携会員								
13										
14										
15										
委員長	吉田 豊信	第三部会員								

(会員・連携会員の別は平成 28 年 3 月 24 日時点)

参考資料5 学術大型研究計画策定における審査・評価プロセス

2016年3月28日

2016年4月27日改正

2016年5月16日改正

学術大型研究計画策定における審査・評価プロセスについて

科学者委員会

学術の大型研究計画検討分科会

1. 学術大型研究計画の審査・評価の担当組織

- ① 学術の大型研究計画検討分科会（以下、本分科会）
- ② 分野（部）別大型研究計画評価小分科会（以下、評価小分科会）

2. 審査・評価プロセス

(ア) 評価小分科会の構成

① 評価小分科会の構成

評価小分科会は、8-10名程度の会員・連携会員で構成する。本構成は、幹事会の承認を経て最終決定とする。

なお、各評価小分科会には、本分科会の委員が1名入ることとする。ただし、本分科会委員は、評価小分科会における計画の評価には参画しない。

② 委員長選出

評価小分科会委員長は、評価小分科会において互選で選出される。ただし、当人が提案者である場合には、その任に当たることができない。評価小分科会委員長は、重点大型研究計画の策定において構成する審査小委員会委員も原則として務めることとする。

(イ) 審査・評価のプロセス

① 応募提案の取り纏めと送付

- 1) 本分科会及び日本学術会議事務局は、応募提案について、資格等の確認を行い、審査の対象とする提案を確定する。
- 2) 日本学術会議事務局は、各分野の応募提案を、当該分野の評価小分科会委員に評価用紙とともに直接送付する。

② 評価小分科会における評価

- 1) 評価小分科会にて、利益相反の考え方・審査方法を確認する。
- 2) 評価小分科会委員は、学術大型研究計画（区分I）及び学術大型研究計画（区分II）の目的・意義を十分理解の上、当該分野の全応募提案を自らの見識の下で厳正に評価し、その結果を評価用紙（別添）に記入して日本学術会議事務局

に送付する。なお、評価小分科会委員自身が提案者になっている提案及び当該提案の策定に密接に参画した提案については、評価を辞退することとする。

提案の評価方法は（エ）項に示す。

- 3) 応募の際、(副)の学術研究領域を指定した提案については、評価小分科会の判断により、(副)に指定された評価小分科会に評価を依頼することができる。(副)に指定された評価小分科会の評価結果は、5)、7)における評価小分科会の判断の際に参考とされる。
- 4) 日本学術会議事務局は、評価小分科会委員の評価結果を集計し、その結果を当該分野(部)の評価小分科会に報告する。その際、評価した小分科会委員の名は伏せる。同時に、各評価小分科会委員が、利益相反の観点からどの提案の評価を辞退したのかを別途一覧にし、当該分野(部)の評価小分科会に報告する。
- 5) 評価小分科会は、総合評価の平均点にもとづき、当該分野(部)の応募提案(区分Ⅰ・学術研究領域で融合領域(コード32-1、33-1、34-1)を選択した提案を除く)について、順位を付けた評価結果を作成する。なお、同一平均点の提案については評価小分科会の判断で順位付けを行うこととする。また、理由を付して提案の順位を入れ替えることができる。
- 6) 評価小分科会は、当該分野(部)の応募提案(区分Ⅰ・学術研究領域で融合領域(コード32-1、33-1、34-1)を選択した提案)について、評価を行う。
- 7) 評価小分科会は、当該分野(部)の応募提案(区分Ⅱ)について、必要に応じコメントを作成する。
- 8) 評価小分科会は、4)の各評価小分科会委員がどの提案の評価を辞退したのかの一覧等をもとに、各評価小分科会委員の評価が利益相反の点から問題がないことを確認する。
- 9) 評価小分科会は、当該分野(部)の評価結果を、本分科会に報告する。

③ 本分科会における学術大型研究計画の策定

本分科会は、学術大型研究計画を以下のとおり策定する。

- 1) 学術大型研究計画(区分Ⅰ)(学術研究領域で融合領域(コード32-1、33-1、34-1)を選択した提案を除く)については、評価小分科会の評価結果に基づき審議を行い、策定する。
- 2) 学術大型研究計画(区分Ⅰ)(学術研究領域で融合領域(コード32-1、33-1、34-1)を選択した提案)については、評価小分科会の評価結果を参考とし、さらに本分科会委員が以下の評価方法により評価を行った上で審議を行い、策定する。

a. 項目評価について

本分科会委員は、利害関係者になる場合を除く全提案について、下記5項目に関して3段階で評価する。各評価項目の全提案に関する平均値は「2」として、特に高い場合には「3」、低い場合には「1」とする。

- i. 学術的価値
- ii. 科学者コミュニティの合意（他の提案との重複の有無なども含む）
- iii. 計画の実施主体、計画の妥当性、共同利用体制の充実度
- iv. 社会的価値（国民の理解、知的価値、経済的・産業的価値など）
- v. 大型研究計画としての適否

b. 総合評価について

本分科会委員は、利害関係者になる提案を除く全提案について、a. の項目評価の結果を踏まえて、以下に従って総合評価を6段階で行う。

- ① 全提案について審査を行い、「学術大型研究計画に相応しい水準を下回る提案」、及び「水準をどちらかといえば下回る提案」については、それぞれ「1」「2」を付ける。（注1）
- ② 次に、利害関係者になる提案及び①で「1」または「2」が付いた提案を除く全提案について、「3」から「6」の評価点で相対評価を行う。ただし、「6」を最も高い評価点とする。
- ③ 評価点分布は、利害関係者になる提案及び①で「1」または「2」が付いた提案を除く当該分野の全提案の総数に基づき、表1に従って定めるものとする。

利害関係にある提案および①で「1」または「2」が付いた提案を除いた応募提案(区分I)の総数	評価点6を与える提案件数	評価点5を与える提案件数	評価点4を与える提案件数	評価点3を与える提案件数
1	いずれの評価点でもよい			
2	0	1	1	0
3	1	1	1	0
4	1	1	1	1
5	1	2	1	1
6	1	2	2	1
7	1	3	2	1
8	1	3	3	1
9	2	3	3	1
10	2	3	3	2
11	2	4	3	2
12	2	4	4	2
13	2	5	4	2
14	2	5	5	2
15	3	5	5	2
16	3	5	5	3
17	3	6	5	3
18	3	6	6	3
19	4	6	6	3
20	4	6	6	4
21	4	7	6	4
22	4	7	7	4
23	4	8	7	4
24	4	8	8	4
25	5	8	8	4
26以上	20%以下	30-35%	30-35%	20%以下

表1 評価点分布の一覧表

（注1）あくまで一般論であるが、たとえ全提案の内で10-25%程度の提案が「1」また「2」の評価を受けたとしても、本分科会はそれに対して違和感を持つものではない。

3) 学術大型研究計画（区分Ⅱ）については、評価小分科会のコメントに基づき審議を行い、策定する。

(ウ) 守秘義務と評価の非公開審議について

本策定作業に関わる本分科会委員、各評価小分科会委員、日本学術会議事務局関係者には、提案内容及び評価の結果について守秘義務が課せられる。また、本分科会及び評価小分科会における評価に関する審議は非公開とする。

(エ) 提案の評価法について

学術大型研究計画（区分Ⅰ）及び学術大型研究計画（区分Ⅱ）の各提案の評価法は以下のとおりである。

I. 学術大型研究計画（区分Ⅰ・学術研究領域で融合領域（コード 32-1、33-1、34-1）

を選択した提案を除く）（(主) の分野（部）での評価の場合）

a. 項目評価について

評価小分科会委員は、利害関係者になる場合を除く当該分野の全提案について、下記5項目に関して3段階で評価する。各評価項目の全提案に関する平均値は「2」として、特に高い場合には「3」、低い場合には「1」とする。

- i. 学術的価値
- ii. 科学者コミュニティの合意（他の提案との重複の有無なども含む）
- iii. 計画の実施主体、計画の妥当性、共同利用体制の充実度
- iv. 社会的価値（国民の理解、知的価値、経済的・産業的価値など）
- v. 大型研究計画としての適否

b. 総合評価について

評価小分科会委員は、利害関係者になる提案を除く当該分野の全提案について、a. の項目評価の結果を踏まえて、以下に従って総合評価を6段階で行う。

- ① 全提案について審査を行い、「学術大型研究計画に相応しい水準を下回る提案」、及び「水準をどちらかといえば下回る提案」については、それぞれ「1」「2」を付ける。（注1）
- ② 次に、利害関係者になる提案及び①で「1」または「2」が付いた提案を除く全提案について、「3」から「6」の評価点で相対評価を行う。ただし、「6」を最も高い評価点とする。
- ③ 評価点分布は、利害関係者になる提案及び①で「1」または「2」が付いた提案を除く当該分野の全提案の総数に基づき、表1に従って定めるものとする。

II. 学術大型研究計画（区分Ⅰ）（学術研究領域で融合領域（コード 32-1、33-1、34-1）

を選択した提案を除く）（(副) の分野（部）での評価の場合）

a. 項目評価について

評価小分科会委員は、評価を依頼された提案について、利害関係者になる場合を除き、下記5項目に関して3段階で評価する。各評価項目の全提案に関する平均値は「2」として、特に高い場合には「3」、低い場合には「1」とする。

- i. 学術的価値
- ii. 科学者コミュニティの合意（他の提案との重複の有無なども含む）
- iii. 計画の実施主体、計画の妥当性、共同利用体制の充実度
- iv. 社会的価値（国民の理解、知的価値、経済的・産業的価値など）
- v. 大型研究計画としての適否

b. 総合評価について

評価小分科会委員は、評価を依頼された提案について、利害関係者になる場合を除き、「1」から「3」の3段階で総合評価を行う。ただし、評価点は以下の評価基準に従って、絶対評価に基づいて行うものとする。

- 3: 学術大型研究計画に相応しい水準を大きく上回っている
- 2: 学術大型研究計画に相応しい水準である
- 1: 学術大型研究計画に相応しい水準を下回っている

Ⅲ. 学術大型研究計画（区分Ⅰ）（学術研究領域で融合領域（コード32-1、33-1、34-1）を選択した提案）

a. 項目評価について

評価小分科会委員は、利害関係者になる場合を除く当該分野の全提案について、下記5項目に関して3段階で評価する。各評価項目の全提案に関する平均値は「2」として、特に高い場合には「3」、低い場合には「1」とする。

- i. 学術的価値
- ii. 科学者コミュニティの合意（他の提案との重複の有無なども含む）
- iii. 計画の実施主体、計画の妥当性、共同利用体制の充実度
- iv. 社会的価値（国民の理解、知的価値、経済的・産業的価値など）
- v. 大型研究計画としての適否

b. 総合評価について

評価小分科会委員は、利害関係者になる提案を除く当該分野の全提案について、「1」から「3」の3段階で総合評価を行う。ただし、評価点は以下の評価基準に従って、絶対評価に基づいて行うものとする。

- 3: 学術大型研究計画に相応しい水準を大きく上回っている
- 2: 学術大型研究計画に相応しい水準である
- 1: 学術大型研究計画に相応しい水準を下回っている

Ⅳ. 学術大型研究計画（区分Ⅱ）

提案について、学術的観点から実施の継続等についてコメントがあれば、記載する。

3. スケジュール（状況により変更の可能性があります）

- 5月13日 評価小分科会委員より、事務局への当該分野（部）の評価結果（区分Ⅰ・区分Ⅱ）の送付締切
- 6月16日 評価小分科会より事務局への当該分野（部）の評価結果（区分Ⅰ（学術研究領域で融合領域（コード32-1、33-1、34-1）を選択した応募提案を除く）及び区分Ⅱ）の送付締切
- 6月末頃 本分科会において学術大型研究計画（案）を策定

参考資料6 重点大型研究計画審査小委員会委員一覧

所属・職名等は平成28年9月17日時点

(学術大型研究計画検討分科会委員)

	氏名	所属・職名	備考
委員長	相原 博昭	東京大学副学長・大学院理学系研究科教授	第三部会員
副委員長	永井 良三	自治医科大学学長	第二部会員
幹事	苧阪 満里子	大阪大学名誉教授・脳情報通信融合研究センター主任研究員・未来戦略機構招聘教授	第一部会員
幹事	長野 哲雄	東京大学名誉教授、東京大学創薬機構客員教授	第二部会員
	岩本 康志	東京大学大学院経済学研究科教授	第一部会員
	宮崎 恒二	東京外国語大学特命事項担当室・教授	第一部会員
	嶋田 透	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	第二部会員
	柴山 悦哉	東京大学情報基盤センター教授	第三部会員
	高原 淳	九州大学先端物質化学研究所長・主幹教授	第三部会員

(学術の大型研究計画検討分科会の下にある各分野の小分科会委員長もしくはその代理)

担当分野	氏名	所属・職名	備考
人文・社会科学	小森田 秋夫	神奈川大学法学部教授	第一部会員
基礎生物学	城石 俊彦	情報・システム研究機構国立遺伝学研究所副所長・教授	第二部会員
統合生物学	巖佐 庸	九州大学大学院理学研究院教授	第二部会員
農学	川井 秀一	京都大学大学院総合生存学館(思修館)学館長・特定教授	第二部会員
食料科学	清水 誠	東京農業大学応用生物科学部教授	第二部会員
基礎医学	田中 啓治	国立研究開発法人理化学研究所脳科学総合研究センター副センター長	連携会員
臨床医学	中畑 龍俊	京都大学 iPS 細胞研究所副所長・特定拠点教授	連携会員
健康・生活科学	那須 民江	中部大学生命健康科学部教授、名古屋大学名誉教授	第二部会員
歯学	丹沢 秀樹	千葉大学大学院医学研究院教授	第二部会員
薬学	清木 元治	金沢大学医薬保健研究域・医学系招聘型リサーチプロフェッサー(特任教授)、東京大学名誉教授	第二部会員
環境学	吉野 博	東北大学総長特命教授・東北大学名誉教授・秋田県立大学客員教授・前橋工科大学客員教授	第三部会員
数理科学	坪井 俊	東京大学大学院数理科学研究科教授	第三部会員
物理学	岡 眞	東京工業大学理学院教授	第三部会員
地球惑星科学	大久保 修平	東京大学地震研究所教授・高エネルギー素粒子地球物理学研究センター長	第三部会員
情報学	喜連川 優	情報・システム研究機構国立情報学研究所所長、東京大学生産技術研究所教授	第三部会員
化学	中村 栄一	東京大学総括プロジェクト機構特任教授、東京大学大学院理学系研究科特任教授、東京大学名誉教授	第三部会員
総合工学	松岡 猛	宇都宮大学基盤教育センター非常勤講師	連携会員
機械工学	菱田 公一	慶應義塾大学理工学部教授	連携会員
電気電子工学	吉田 進	京都大学特任教授・名誉教授	第三部会員
土木工学・建築学	依田 照彦	早稲田大学理工学術院創造理工学部教授	連携会員
材料工学	吉田 豊信	東京大学名誉教授	第三部会員

重点大型研究計画策定における審査・評価プロセスについて

日本学術会議科学者委員会
学術の大型研究計画検討分科会

1. 重点大型研究計画審査小委員会の構成

重点大型研究計画審査小委員会（以下、審査小委員会）^(注)は、学術の大型研究計画検討分科会（以下、本分科会）委員、および各分野（部）別学術大型研究計画評価小分科会（以下評価小分科会）の委員長もしくはその代理（以下、評価小分科会委員長）で構成される。ただし、提案者は審査小委員会の構成員（以下、審査小委員会委員）になることはできない。

(注) 審査小委員会は通称であり、学術の大型研究計画検討分科会において評価小分科会委員長を参考人として招聘することにより会議が成立するものとする。

2. 重点大型研究計画の制定

重点大型研究計画は、学術大型研究計画の中から、25-30件程度を、諸観点から速やかに推進すべき計画として選択する。

3. 重点大型研究計画の審査・評価のプロセス

- ① 本分科会は、学術大型研究計画に関して、別表1にもとづいて分野（部）毎にヒアリングの対象とする提案を定める。ただし、本分科会が必要と認めれば、上記に加えて若干数の提案をヒアリングの対象に追加することができる。
- ② ヒアリングは、2016年9月17日（土）から19日（月）の3日間実施する。
- ③ 審査小委員会委員は、学術大型研究計画審査・評価結果及びヒアリングに基づき、自らの見識の下で厳正に提案を評価する。ただし、評価の対象はヒアリングを行った提案のみとする。また、利害関係者の排除の観点から、自らの活動に関連する提案の評価には関与しないこととする。
- ④ 本分科会は、審査小委員会委員の評価点数の平均値に従って順位付けを行い、それに基づき審議し、重点大型研究計画を25-30件程度策定する。必要であれば、再度ヒアリングを行うことができる。
- ⑤ 本分科会は、マスタープラン2017の策定が日本学術会議の意思の表出であるという観点に立ち、各部から一定数程度以上の計画が重点大型研究計画に含まれるように配慮する。ただし、この場合の「一定数程度」は2ないし3と理解する。
- ⑥ 重点大型研究計画の評価結果の公表形式は今後議論することとする。

4. 重点大型研究計画の評価法について

(ア) 審査小委員会委員は、自らが直接関係する分野以外かつヒアリングを自ら行った全ての提案（以下、全評価対象提案）について、以下の7項目に関して3, 2, 1の3段階で絶対評価する。

- i. 学術的価値
- ii. 実施主体の明確性（責任を果たせる体制になっているか）
- iii. 計画の妥当性、成熟度、共同利用体制の充実度
- iv. 社会的価値（国民の理解、知的価値、経済的・産業的価値）
- v. 大型研究計画としての適否
- vi. 国家としての戦略性、緊急性
- vii. 予算化のための計画の準備状況

特に優れている場合を「3」として、優れている場合には「2」、優れていない、もしくは問題がある場合には「1」とする。

(イ) 審査小委員会委員は、全評価対象提案について、5を最高評価点にして5段階で総合評価を行う。ただし、評価は相対評価であり、評価点の分布は下記のとおりとする。詳細は別表2の通り。

5	全評価対象提案の約 20%
4	全評価対象提案の約 20%
3	全評価対象提案の約 20%
2	全評価対象提案の約 20%
1	全評価対象提案の約 20%

5. 今後のスケジュールについて

2016年6月頃	学術大型研究計画の策定
2016年7月頃	連絡担当者に採否通知
2016年7月頃	ヒアリング対象提案への通知
2016年9月17-19日	ヒアリング
2016年10月頃	重点大型研究計画の策定
2016年11月頃	意思の表出に向けた提言（案）の作成
2016年12月頃	科学者委員会審議・承認
2017年1月頃	幹事会審議・承認
2017年1月頃	マスタープラン2017を公表
2017年4月	総会へ報告

分野		応募件数	ヒアリング対象 件数の目安
第一部		10	4
第二部	基礎生物学	2	1
	統合生物学	2	1
	農学	11	4
	食料科学	8	3
	基礎医学	3	1
	臨床医学	4	2
	健康・生活科学	1	1
	歯学	1	1
	薬学	3	1
合計		35	15
第三部	環境学	4	2
	数理科学	1	1
	物理学	24	7
	地球惑星科学	8	3
	情報学	16	5
	化学	4	2
	総合工学	12	4
	機械工学	4	2
	電気電子工学	5	2
	土木工学・建築学	2	1
	材料工学	4	2
合計		84	31
第一部～第三部の合計		129	50
融合領域	生命科学融合領域	3	1
	理学・工学融合領域	9	4
	人文・社会科学、生命科学・理学・工学 のうち2分野以上に関わる融合領域	25	7
合計		37	12
総件数		166	62

別表1 各分野（部）におけるヒアリング対象件数の目安

評価件数※	5点	4点	3点	2点	1点
1～13件 略					
14	3	3	3	3	2
15	3	3	3	3	3
16	3	3	4	3	3
17	3	4	4	3	3
18	3	4	4	4	3
19	4	4	4	4	3
20	4	4	4	4	4
21	4	4	5	4	4
22	4	5	5	4	4
23	4	5	5	5	4
24	5	5	5	5	4
25	5	5	5	5	5
26	5	5	6	5	5
27	5	6	6	5	5
28	5	6	6	6	5
29	6	6	6	6	5
30	6	6	6	6	6
31	6	6	7	6	6
32	6	7	7	6	6
33	6	7	7	7	6
34	7	7	7	7	6
35	7	7	7	7	7
36	7	7	8	7	7
37	7	8	8	7	7
38	7	8	8	8	7
39	8	8	8	8	7

評価件数※	5点	4点	3点	2点	1点
40	8	8	8	8	8
41	8	8	9	8	8
42	8	9	9	8	8
43	8	9	9	9	8
44	9	9	9	9	8
45	9	9	9	9	9
46	9	9	10	9	9
47	9	10	10	9	9
48	9	10	10	10	9
49	10	10	10	10	9
50	10	10	10	10	10
51	10	10	11	10	10
52	10	11	11	10	10
53	10	11	11	11	10
54	11	11	11	11	10
55	11	11	11	11	11
56	11	11	12	11	11
57	11	12	12	11	11
58	11	12	12	12	11
59	12	12	12	12	11
60	12	12	12	12	12
61	12	12	13	12	12
62	12	13	13	12	12
63	12	13	13	13	12
64	13	13	13	13	12
65	13	13	13	13	13

※利害関係者となる計画、また、欠席等によりヒアリングに参加できなかった計画を除いた件数により、点数分布をご確認ください。

別表2 総合評価の評価点分布

参考資料 8 区分 I 分野別の応募提案数・学術大型研究計画数・ヒアリング対象数・重点大型研究計画数

分野	応募提案数			学術大型研究計画			ヒアリング対象			重点大型研究計画		
	大型施設 計画	大規模研 究計画	合計	大型施設 計画	大規模研 究計画	合計	大型施設 計画	大規模研 究計画	合計	大型施設 計画	大規模研 究計画	合計
人文・社会科学	1	9	10	1	9	10	0	4	4	0	1	1
基礎生物学	0	2	2	0	2	2	0	1	1	0	1	1
統合生物学	0	2	2	0	2	2	0	1	1	0	0	0
農学	3	8	11	3	8	11	1	3	4	0	1	1
食料科学	2	6	8	2	6	8	0	3	3	0	1	1
基礎医学	2	1	3	2	1	3	1	1	2	1	1	2
臨床医学	0	4	4	0	4	4	0	2	2	0	1	1
健康・生活科学	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0
歯学	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1
薬学	1	2	3	1	2	3	0	1	1	0	1	1
環境学	1	3	4	1	3	4	0	2	2	0	1	1
数理科学	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1
物理学	15	9	24	15	9	24	5	2	7	3	2	5
地球惑星科学	2	6	8	2	6	8	1	2	3	1	0	1
情報学	0	16	16	0	16	16	0	5	5	0	1	1
化学	2	2	4	2	2	4	2	0	2	1	0	1
総合工学	0	12	12	0	12	12	0	4	4	0	2	2
機械工学	1	3	4	1	3	4	0	3	3	0	0	0
電気電子工学	1	4	5	1	4	5	0	2	2	0	0	0
土木工学・建築学	2	0	2	2	0	2	2	0	2	1	0	1
材料工学	1	3	4	1	3	4	1	1	2	0	0	0
生命科学融合領域	0	3	3	0	2	2	0	1	1	0	1	1
理学・工学融合領域	2	7	9	2	7	9	1	3	4	0	1	1
人文・社会科学、生命科学、 理学・工学のうち2分野以上 に関わる融合領域	4	21	25	4	19	23	2	5	7	2	2	4
合計	40	126	166	40	123	163	15	49	65	9	19	28

参考資料9 提案者の分類

区分Ⅰ 提案者の分類

	応募提案	学術大型 研究計画	ヒアリング	重点大型 研究計画
①研究・教育機関長ま たは部局長等	66(22)	64(20)	23(12)	13(9)
②日本学術会議会員・ 連携会員	70	70	29	11
③学協会長等	30(12)	29(12)	13(7)	4(2)
合計	166	163	65	28

区分Ⅱ 提案者の分類

	学術大型 研究計画
①研究・教育機関長ま たは部局長等	11(7)
②日本学術会議会員・ 連携会員	2
③学協会長等	3(2)
合計	16

() 内は①③のうち日本学術会議会員・連携会員でもある提案者数

参考資料 10 審議経過

平成 27 年

- 4 月 1 日 学術の大型研究計画検討分科会（第 1 回）
役員の選出、今後の分科会の活動方針について検討
- 6 月 3 日 学術の大型研究計画検討分科会（第 2 回）
策定にあたってのアンケートについて検討
- 6 月 30 日 学術の大型研究計画検討分科会（第 3 回）
参考人との意見交換、アンケートについて検討
- 7 月 27 日 学術の大型研究計画検討分科会（第 4 回）
公募要領、今後の進め方等について検討
- 8 月 各部会（夏季部会）
第 23 期マスタープラン策定の方針について報告
- 9 月 28 日 学術の大型研究計画検討分科会（第 5 回）
第 23 期マスタープラン策定の方針、今後の進め方について検討
- 10 月 各部会 第 23 期マスタープラン策定の方針について報告
- 10 月 16 日 学術の大型研究計画検討分科会（第 6 回）
第 23 期マスタープラン策定の方針、今後の進め方について検討
- 10 月 27 日 学術の大型研究計画検討分科会（第 7 回）
（文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会（第 48 回）との合同会議）
今後のマスタープランとロードマップの連携について検討
- 11 月 9 日 学術の大型研究計画検討分科会（第 8 回）
参考人との意見交換、第 23 期マスタープラン策定の方針について検討
- 12 月 7 日 学術の大型研究計画検討分科会（第 9 回）
報告案「第 23 期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針」の取りまとめ
- 12 月 22 日 学術の大型研究計画検討分科会（第 10 回）
公募要領等について検討

平成 28 年

- 1 月 25 日 科学者委員会（第 19 回）（メール審議）
報告案「第 23 期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針」の承認
- 1 月 25 日 学術の大型研究計画検討分科会（第 11 回）
公募要領等について検討
- 1 月 29 日 日本学術会議幹事会（第 224 回）
報告「第 23 期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープ

ラン策定の方針」の承認

- 2月1日 学術の大型研究計画検討分科会（第12回）
公募要領等について検討
- 2月29日 学術の大型研究計画検討分科会（第13回）
審査プロセス等について検討、科学者委員会の運営要綱の改正（各分野の評価小分科会の設置）について承認
- 3月10日 科学者委員会（第21回・メール審議）
科学者委員会運営要綱の改正（各分野の評価小分科会の設置）について承認
- 3月24日 日本学術会議幹事会（第226回）
科学者委員会運営要綱の改正（各分野の評価小分科会の設置）及び各分野の評価小分科会委員の決定
- 3月28日 学術の大型研究計画検討分科会（第14回）
審査プロセス等について検討、学術大型研究計画策定における審査・評価プロセスを決定
- 4月6日 電気電子工学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員の選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 4月6日 材料工学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員の選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 4月7日 環境学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員の選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 4月12日 健康・生活科学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員の選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 4月14日 基礎生物学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員の選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 4月14日 統合生物学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員の選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 4月15日 情報学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員の選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 4月18日 薬学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員の選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の

- 確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 4月18日 物理学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員を選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 4月18日 数理科学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員を選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 4月25日 臨床医学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員を選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 4月26日 総合工学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員を選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 4月27日 食料科学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員を選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 4月27日 学術の大型研究計画検討分科会（第15回）
審査プロセス等について検討、学術大型研究計画策定における審査・評価プロセスを改定
- 4月27日 化学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員を選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 4月28日 地球惑星科学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員を選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 4月28日 土木工学・建築学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員を選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 5月2日 基礎医学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員を選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 5月9日 歯学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員を選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 5月13日 機械工学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員を選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 5月13日 農学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）

- 役員を選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 5月13日 人文・社会科学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）
役員を選任、小分科会における審議事項等の確認、利益相反の考え方の確認、とりまとめの審議の方法の決定
- 5月16日 学術の大型研究計画検討分科会（第16回）
審査プロセス等について検討、学術大型研究計画策定における審査・評価プロセスを改定
- 5月31日 情報学分野の大型研究計画評価小分科会（第2回）
評価結果とりまとめ、利益相反についての確認
- 6月7日 食料科学分野の大型研究計画評価小分科会（第2回）
評価結果とりまとめ、利益相反についての確認
- 6月7日 土木工学・建築学分野の大型研究計画評価小分科会（第2回）
評価結果とりまとめ、利益相反についての確認
- 6月8日 物理学分野の大型研究計画評価小分科会（第2回）
評価結果とりまとめ、利益相反についての確認、補足意見のとりまとめ
- 6月9日 環境学分野の大型研究計画評価小分科会（第2回）
評価結果とりまとめ、利益相反についての確認、補足意見のとりまとめ
- 6月10日 農学分野の大型研究計画評価小分科会（第2回）
評価結果とりまとめ、利益相反についての確認
- 6月12日 基礎生物学分野の大型研究計画評価小分科会（第2回・メール審議）
評価結果とりまとめ、利益相反についての確認
- 6月14日 総合工学分野の大型研究計画評価小分科会（第2回）
評価結果とりまとめ、利益相反についての確認
- 6月15日 化学分野の大型研究計画評価小分科会（第2回・メール審議）
評価結果とりまとめ、利益相反についての確認
- 6月15日 地球惑星科学分野の大型研究計画評価小分科会（第2回・メール審議）
評価結果とりまとめ、利益相反についての確認
- 6月28日 学術の大型研究計画検討分科会（第17回）
学術大型研究計画分科会案を策定
- 7月12日 学術の大型研究計画検討分科会（第18回）
重点大型研究計画策定の審査・評価プロセスを決定、ヒアリング対象提案を決定
- 9月17-19日 学術の大型研究計画検討分科会（第19回）
重点大型研究計画案策定に係るヒアリング
- 10月12日 学術の大型研究計画検討分科会（第20回）
重点大型研究計画分科会案の決定
- 10月31日 学術の大型研究計画検討分科会（第21回）

マスタープラン 2017 について検討

11 月 15 日 科学者委員会 (第 30 回)

マスタープラン 2017 について説明

12 月 5 日 学術の大型研究計画検討分科会 (第 22 回)

提言 (案)「第 23 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン (マスタープラン 2017)」の承認

平成 29 年

1 月 22 日 科学者委員会 (第 32 回・メール審議)

提言 (案)「第 23 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン (マスタープラン 2017)」の承認

1 月 27 日 日本学術会議幹事会 (第 241 回)

提言「第 23 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン (マスタープラン 2017)」の承認